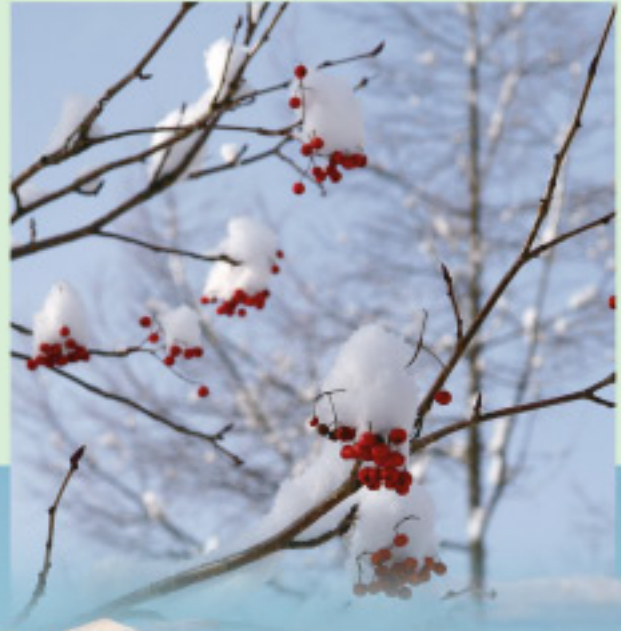


環境報告書 2009



旭川医科大学学章

雪の結晶により北海道を、旭川市民の木「ナナカマド」により旭川をイメージすることができ、その中央の医大の文字により、北海道の中央にある「旭川医科大学」をイメージしています。



旭川医科大学環境方針

1. 基本理念

旭川医科大学は、自然豊かな北海道の北部・東部の中心にあり、その教育・研究及び診療などに伴う全ての活動において、人と自然が調和した社会環境の保全・改善のために配慮が必要と考え、常に環境に配慮した取り組みを目指します。

2. 基本方針

旭川医科大学は、基本理念を実現するために、以下のことについて実施します。

- 1 本学における教育、研究及び診療において、人と自然が調和した社会の環境を保全・改善することに努めます。
- 2 地球環境の保全・改善のため、地域社会との連携を強め環境問題の解決に努めます。
- 3 環境関連法規、条例及び協定を遵守するとともに、環境に与える負荷の低減に努めます。
- 4 この環境方針を達成するために、職員及び学生などと協力して環境に配慮した取り組みの実施体制を確立するとともに環境目標を設定し、広く公開します。

平成21年9月

国立大学法人 旭川医科大学長 吉田 晃敏

C O N T E N T S

01 旭川医科大学学章
旭川医科大学環境方針

02 ごあいさつ

03 特集:地域医療の未来を変える
旭川医科大学の挑戦

旭川医科大学2008活動トピックス
Theme1 「ふるさと医療人」の育成へ
Theme2 働きやすい病院を目指して
Theme3 地域の健康を守るために
Theme4 地域全体へ医療を届ける

13 大学概要

位置図・キャンパスマップ
組織機構図・法人役員数等
大学教育及び病院理念と目標
実施体制
環境目標及び実施計画並びに評価結果(平成20年度)

17 教育・研究・社会貢献における環境への取り組み

教育・研究における環境への配慮
エキノコックス症の研究:北海道から全世界へ
学生に対する環境関連の教育
シックハウス症候群の研究
環境関連調査
社会・環境コミュニケーション
旭川医科大学派遣講座

23 病院における環境への取り組み・社会貢献

品質・安全向上への取り組み
呼吸器センターの設立
地域がん診療連携拠点病院としての活動
みなさまの声を聞くために

27 事業活動にともなう環境負荷低減への取り組み

エネルギー・資源の使用量
29 ごみ分別区分と処理の流れ
30 資源再利用への取り組み
31 医療廃棄物等処理マニュアル
32 グリーン購入・調達状況など

33 監事評価

34 大学機関別認証評価
結び
編集後記



国立大学法人 旭川医科大学長
最高環境責任者 **吉田 晃敏**

ごあいさつ

旭川医科大学は、1973（昭和48）年の建学以来、地域に根ざした医療および福祉の向上を理念に掲げ、道北・道東地域における医学研究の拠点として重要な役割を担ってきました。

特に、地域間の医療格差是正を目指して、1999（平成11）年全国に先駆けて設置された遠隔医療センターは、現在までに、日本国内の他、アジアやアメリカなど国外へも拡大し、いまや50を超える内外の医療機関とネットワークを形成しています。

これら最先端ICT技術が融合した施設と共に、本学が誇るかけがえのない「宝」と言えるのが、遙か大雪山連峰の雄大な山並みを望む豊かな自然環境です。寒暖差60℃を超えるという、極めてユニークなこの自然環境が、四季折々を通じて、実にドラマチックな風景を演出してくれています。

とはいえ、加速する地球温暖化の影響から、私たちの街もまた逃れることはできません。旭川は、1902（明治35）年1月に、正式の気象観測所の記録としては日本の最低温度となる、-41℃を記録した地としても広く知られていますが、近年の最低気温は-25℃前後となっていて、平均して、ここ100年で10℃ほど上昇していると見られています。

次代へと命をつなぐ、このかけがえのない地球環境を守っていくことは、命と向き合う医療現場に身を置く私たちに課せられた、極めて重要な使命です。

建学の精神でもある「地域医療に根ざした、医療・福祉の向上」の原点に立ち、最先端医学・医療の教育・研究に教職員が一丸となって新たなチャレンジを続けていくと共に、地球環境の保全という大きな目標のために、私たち大学人ができることを、北の大地で日々積み重ねていきたいと、ここに改めて宣言いたします。

[……特集……] 地域医療の未来を変える

旭川医科大学の挑戦

Challenge of Asahikawa Medical College

高齢化が進み、医療を必要とする人が増える一方で、
多くの地域では医療人が足りず、医療格差は深刻化しています。
すべての地域で暮らす人々が、
等しく最高の医療を受けられる未来を創るために
旭川医科大学は挑戦を続けていきます。

Theme 1

ふるさと医療人の
育成へ
地域社会が、地域の医師を育む

Theme 2

働きやすい
病院を目指して
女性が働き続けられる職場環境づくり

Theme 3

地域の健康を
守るために
健康の知識を提供し、地域社会を元気に

Theme 4

地域全体へ
医療を届ける
医療の均てん化を目指した取り組み

旭川医科大学2008
活動トピックス

地域医療従事者の育成

地域を支える人材育成事業の協定書に調印
【2008年5月29日】

「高大病連携によるふるさと医療人育成の取組」が
質の高い大学教育推進プログラムに選定
【2008年9月30日】(→P5)

高大病連携合同シンポジウム開催
【2009年2月21日】(→P6)

医学科 AO入試北海道地域枠導入
【2009年2月】



高大病連携合同シンポジウム

キッズスクール



雪中運動会

特別授業「人間の体を知ろう」

特別授業「生命誕生の不思議」

体験学習

地域医療従事者の確保

医師・看護師 子育て支援セミナー(二輪草セミナー)開始
【2008年6月17日】(→P8)

二輪草センター 学童保育サポート開始
【2008年7月】(→P7)



旭川ウェルビーイング・コンソーシアム
公開シンポジウム

地域に健康知識を発信

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム設立
【2008年5月26日】(→P9)

旭川ウェルビーイング・コンソーシアム
公開シンポジウム開催
【2008年10月29日】(→P9)

医療サービスの充実

衛星インターネットを用いた離島・過疎地向け
遠隔医療支援の研究開始(→P11)

旭川医科大学呼吸器センター開設
【2008年5月】(→P23)

「北海道洞爺湖サミット」に先立ち、国内外メディアに
遠隔医療センターの活動を紹介
【2008年5月16日】(→P11)

道北ドクターヘリ運航調整研究会に参加
【2008年8月28日】(→P12)

ドクターヘリ試験運航に参加
【2008年9月22日~28日】(→P12)

高橋はるみ北海道知事に要望書を提出
【2008年10月28日】(→P12)



道北ドクターヘリ(手前)

「ふるさと医療人」の育成へ

地域社会が、地域の医師を育む

医療人として地域医療に携わることの意義と喜びを伝え、それに共鳴してくれる、志を持った北海道の若者たちが地域を支える医療人へと育つのを全力でサポートする「高大病連携によるふるさと医療人育成の取組」を始めました。

地域の医療人を育てるため 高校・大学・病院が連携

医師の地域偏在は、医療過疎に陥る地域医療を立て直す上で大きな課題です。旭川医科大学では、医師不足解消を目指し、医師の養成及び確保に真摯に取り組んでいます。

旭川医科大学は医師をはじめとした医療人の育成は高校生から始まると考え、長期間の医療人育成構想を持っています。高校・大学・病院の連携の中心に旭川医科大学が立ち、地域と一体になって、将来北海道の各地で医療職従事者となる「ふるさと医療人」を増加させようという取り組みを、全学を挙げて開始しました。

「高大病連携によるふるさと医療人育成の取組」の概要は以下のとおりです。

1. 「医療人としての職業観」の自覚を促す
 - ① 高校生に地域医療を学ぶ教育の場を提供
 - ② 「高大病連携」となる人材育成、学習プラン、評価法等のサポートを提供
 - ③ 上記実習体験を、人物評価重視の「地域枠入学者選抜」へ反映
2. 入学者選抜における地域枠の拡大
 - ① 「地域枠推薦入試」「学士編入学(北海道地域枠)」導入(平成20年度～)
 - ② 「AO入試北海道地域枠」導入(平成21年度～)
3. 学部教育における、6年一貫の重層的地域医療教育(2009カリキュラムより実施)

質の高い大学教育推進 プログラムに選定

平成20年度質の高い大学教育推進プログラムとして、平成20年9月30日、「高大病連携によるふるさと医療人育成の取組」が選定されました。医療過疎の北海道において、地域の医療ネットワークをベースとして人材育成を図り、地域のニーズに応えようとするプログラムであることが高く評価されたことと、選定理由には「高校・大学・病院の三者が連携して、高校生の地域医療体験・入学者選抜・入学後の学部教育・道内での卒業後の研修という一貫した流れの中で人材を育成しようとしていることは、地域医療人を育成するという観点から見て、この取組の目的達成のために大きな意義を有するものである。また、大学がこの取組の意義を高く位置付け、これまでに地域枠入試の拡大、カリキュラム開発等に積極的に取り組んできた実績を有していること、プログラムの実施について具体的な計画を立てていること等、取組の実現性についても評価できる」とあります。今後は連携に当たり、高校側の考えや要望を受け止めながら協力を一層推進し、着実に成果を上げることが期待されています。



高大病協議会の主旨説明



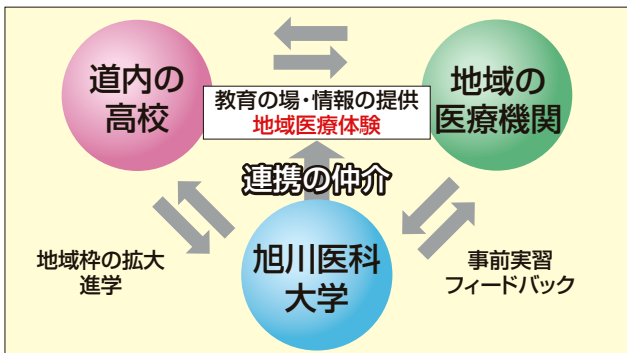
地区別個別協議の様子

シンポジウム開催と今後の取り組みの発展

平成20年11月から本格的な活動が始まりました。平成21年2月21日には、高大病連携によるふるさと医療人育成の取組に関係する高大病連携協議会と高大病連携合同シンポジウムを開催しました。北海道教育委員会が指定する医進類型指定校関連26名、病院関連7名、大学関連10名、一般5名の48名の出席を得て議論が行われました。平成21年6月には、医進類型指定校と札幌圏の高等学校進路指導担当者を集めて、本事業の説明会の開催を予定しています。平成21年の夏休みには、道内の6高等学校の生徒さんが本事業による医療実習に参加する予定です。



高大病連携合同シンポジウム



VOICE

シンポジウム参加者から寄せられた声 (一部)

- 来年以降は、実際の活動に基づいての議論が可能になると思います。現場の声(例えば高校生も)をより取り込んだ形になれば有意義さが増すと思います。
- 良い内容だったので、もっと多数の人に聞いてもらいたいと思います。
- 地域医療で活躍している人の中で高校生にその魅力を語る方の情報を高校にも積極的に提供して欲しいと思います。インターンシップに関する情報も含めてディスカッションの時間を多くして頂きたいと思います。
- 大変勉強になりました。シンポジウムの前に実施された協議会に少し不満あり。時間不足、連絡不足等。とても大切な会なのでしっかりとした企画を。
- 本プロジェクトあるいはこれに似た活動は今後必須になると信じています。20年後、30年後の社会において医療の本質が改善していくことを期待します。
- 医療従事者を目指す高校生も参加してもらって、高校生の考え、意見をもらっても良いと思う。

■平成20年度教育GP活動記録

平成20年	11月～	高大病連携に関する協議の開始
	11月～12月	本学と地域協力医療機関との協議会の設置 遠隔学生評価システム・学生の成績トレースシステムの拡充
平成21年	1月12日	大学教育改革合同フォーラム・ポスターセッションへの参加
	2月21日	高大病連携協議会・高大病連携合同シンポジウムの開催

Theme 2

働きやすい病院を目指して

女性が働き続けられる職場環境づくり

育児・介護などを抱えながら激務に臨む女性医師・看護師の負担を少しでも減らすようサポートすることは病院の急務です。それが全ての人にとって働きやすい職場環境作りにつながり、医療現場への人材確保につながると旭川医科大学は考えます。

女性が働きやすい職場づくりへ

平成19年に女性医師・女性看護師に行ったアンケートの結果から、仕事と育児の両立を9割以上が辛いと感じており、その中でも子どもの病気時に対する配慮を望む声が多くありました。さらに介護に関するアンケートでは、女性医師の62%、女性看護師の47%が介護のために離職しなければならない不安を感じているという結果が出ました。現在、女子医学生も年々増加しており、今後も女性医療人の増加が見込まれます。そのような中で、女性医療人への支援を行うと共に、周囲の理解を得ることや職場環境の改善が、男性やさまざまな立場の方にとっても病院全体の働きやすさへとつながっていくと考え、旭川医科大学に「復職・子育て・介護支援センター」（略称）二輪草センターが設立されました。

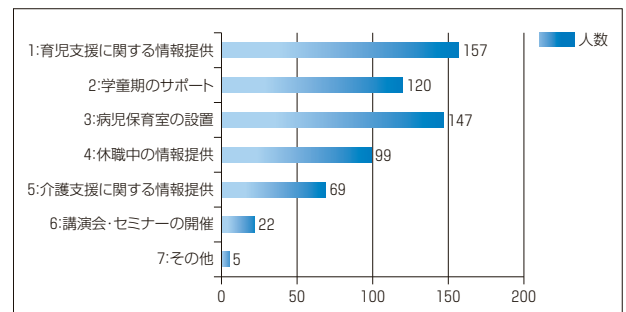
二輪草センターの活動内容

二輪草センターの活動は、「復職支援研修部門」と「子育て・介護支援部門」の二つの部門で取り組んでいます。「復職支援研修部門」は、潜在人材登録システムに基づき復職希望者の登録、就業情報、復職教育プログラムの提供、セミナー・講演会等の情報提供を行っています。「子育て・介護支援部門」では、バックアップナースシステム、病児一時預かり室を設け就業中の職員のサポートを行っています。これらを利用された方からは、システムがあることで安心できるという声をいただいています。同時に、旭川市の子育て支援制度や専門機関との連携窓口となり、悩み相談カウンセリング室としての役割も担っています。また、地域医療において、医師不足が大きな課題となっている中、合同入局説

明会を行い、各診療科の代表が勤務体制やキャリアアップ・女性医師への支援状況などを学生向けに口頭発表やパネル展示で説明し、病院全体が一丸となり旭川医大に残る医師を確保する動きとなっております。

二輪草センターの活動がより職員の声を反映していけるようアンケート調査も何度か行いました。その中で要望が多数あった病後児施設につきましては、平成21年度中に設立することが決定し、働き続けられる環境作りに役立てていただけることと思います。

■二輪草センターの活動に期待することは何ですか？



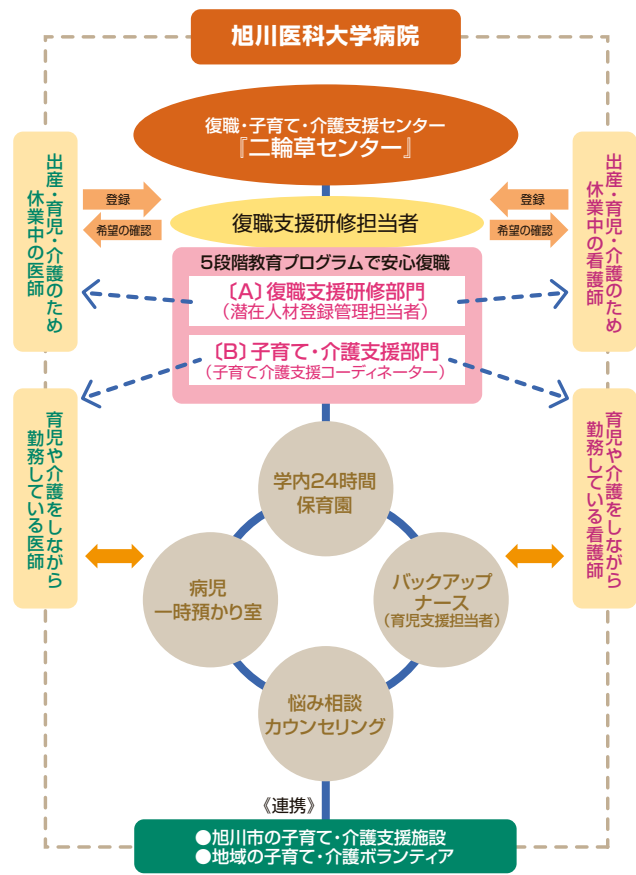
(平成20年10月実施アンケートより)

学童保育サポートの開始

旭川医大の職員が子どもの夏休みや冬休み中でも安心して就労でき、同時に子ども達にとってもひとりで留守番をしている時間が少しでも減り、お友達と楽しい時間を過ごせる環境を提供したいという趣旨で開催いたしました。平成20年7月より活動を開始し今年の夏で3回目となります。活動内容としましては、収穫体験・工作などの他に学内教員による特別授業を行い、子ども達は、3日間のプログラムに楽しんで参加しています。保育士資格のあるセンター職員を中心に活動し、本学学生もボランティアとして多数参加しています。子ども達にとって大学生のお兄さんお姉さんに関わる機会はあまりないので、学生にとっても子ども達にとっても貴重な経験となっているようです。

二輪草セミナー

- 第1回開催(2008年6月)
「子育てから見えてくるもの～学童保育について考えよう～」
- 第2回開催(2008年8月)
「母として看護師として～自らの経験をもとに～」
- 第3回開催(2008年9月)
「男性の子育て経験～人生を2倍楽しむパパの奮闘記」
- 第4回開催(2008年12月)
「医師座談会～病児保育を考える～」
- 第5回開催(2009年1月)
「看護師座談会～病児保育を考える～」
- 第6回開催(2009年3月)
「子供から見た、医師の子育て～共働きでも子は育つ～」
- 第7回開催(2009年5月)
「介護を通して～仕事と介護の両立の中で思うこと～」



第6回 開催風景



第5回 開催風景



第3回 開催風景



第2回 開催風景

地域の健康を守るために

健康の知識を提供し、地域社会を元気に

病気や怪我の予防も医療崩壊の歯止めにつながります。地域の方々から健康について知識を求める声は多く、旭川医科大学は地域の自治体や教育機関と連携し公開講座やフォーラムなどを意欲的に開催しています。

旭川ウェルビーイング・コンソーシアムの結成

平成20年5月26日、旭川医科大学が中心となり、旭川市内の五つの高等教育機関と旭川市による「旭川ウェルビーイング・コンソーシアム」を結成しました。

このコンソーシアムは、旭川市の高等教育機関が相互に連携・協力し、旭川市内の高等教育全体の質の向上を図るとともに、旭川エリアが有する豊かな自然環境や健康保養資源を基盤として、地域資源に根ざした産業群との協働と、住民と行政の自主的・積極的な参加のもとに、医療機関が集積する旭川エリアの地域優位性を活用して形成されるものであります。旭川エリアの住民の身体的・精神的・社会的な健康（ウェルビーイング）の達成と教育・地域振興を図ることを目指し、その実現のためさまざまな取り組みを行うものです。



旭川ウェルビーイング・コンソーシアム設立会議に参加する吉田晃敏学長(右)

公開シンポジウムで各機関が抱負を語る

平成20年10月29日に公開シンポジウムを開催し、「コンソーシアムへの期待とわが校の役割」と題したパネルディスカッションを行い、各機関がコンソーシアム取り組みへの抱負を語りました。

また、平成21年1月27日には健康保養フォーラム「食と健康～アレルギーとの関わり」を旭川市と共催し、アレルギーと食・環境食と健康についての公開討論会を行いました。



パネルディスカッション「コンソーシアムへの期待とわが校の役割」旭川市大雪クリスタルホール内 旭川市国際会議場大会議室(内外227名参加)

旭川ウェルビーイング・コンソーシアムの取り組み(一部)

- ①大学が地域と連携して取り組む事業を支援する、文部科学省公募事業の「戦略的大学連携支援事業」への応募
- ②旭川市教育委員会の取り組みとして行っている「連携公開講座等事業」

北海道メディカルミュージアムによる 啓発活動

旭川医科大学病院は、地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献することを理念としており、また、病院の中期目標の一つに遠隔医療を中心とした教育を掲げております。

活動の一環として、密接な繋がりのある旭川市と近隣自治体を中心に、インターネットのテレビ会議システムを活用した公開講座形式の「北海道メディカルミュージアム」を形成し、積極的な社会貢献を行っており、今や全道を対象にしています。

本構想は、2003年3月に「上川中部圏地方拠点都市地域情報通信高度化調査研究会」で提案し、旭川市と愛別町、上川町、鷹栖町、当麻町、東神楽町、東川町、美瑛町、比布町の8町から賛同を得られ、その後「北海道・上川中部圏自治体と旭川医科大学との連携協議会」を設置し、本構想の実現に向けた検討を行いました。

2004年3月の第1回目開催から現在まで、トライアルを含め17回開催しており、延べ2,000人を超える人々が受講しています。今後も、道内の医療従事者や住民に対して、身近な医療に関する知識や情報を提供することで、遠隔医療による生涯教育を広めていきたいと考えております。

北海道メディカルミュージアムの実施方針は以下のとおりです。

- 医学、医療、福祉等の観点から、住民への遠隔教育、情報サービスを提供。
- 他地点に情報を配信しながらも、リアルタイムで質疑応答を可能にする。
- ビデオ画像や静止画像を駆使した、理解しやすい開設内容。
- 各地の受講者層の幅を広げ、それぞれに合わせた内容を企画。
- 一方的講義を避け、クロストークや挙手等の参加型を目指す。

北海道メディカルミュージアムの2008年度実施状況

- 第12回開催 2008年6月
「乳がんを知りましょう ～早期発見と適切な治療～」
- 第13回開催 2008年9月
「歯周病から舌ガン治療までー歯科口腔外科の最前線ー」
- 第14回開催 2008年11月
「再生歯科医療の最前線」
- 第15回開催 2009年2月
「肺がんの診断と治療の進歩」
- 第16回開催 2009年6月
「白内障の原因と症状・治療」



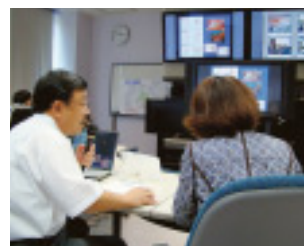
第16回 開催風景



第15回 開催風景



第14回 開催風景



第13回 開催風景



第12回 開催風景

地域全体へ医療を届ける

医療の均てん化を目指した取り組み

遠隔地からの通院、長時間の搬送を伴う救急など、道北圏は都市部との大きな医療格差に脅かされてきました。旭川医科大学は道北圏の僻地に住まう患者様が、十分な医療を受けられるよう研究や活動を続けています。

地域を支える 遠隔医療への取り組み

旭川医科大学病院は、1994年から遠隔医療に取り組んでおり、1999年7月には、国内唯一の遠隔医療センターが供用を開始しました。

現在、道内を中心に国内外51の医療機関とネットワークを形成し、リアルタイムでの手術の指導、MRI・CT・X線フィルム画像・心電図・消化管内視鏡像等の画像診断、術中迅速病理組織診断（テレパソロジー）等を行っています。

遠隔医療センターの近年の動き

- 2007年 医療の均てん化を目指した新しい遠隔医療ネットワークの研究～衛星インターネットを用いた離島・過疎地向け遠隔医療支援～開始
- 2008年 G8主要国首脳会議「北海道洞爺湖サミット」に先立ち国内外メディアに遠隔医療センターの役割と活動を紹介
- 2009年 吉田晃敏学長（遠隔医療センター長）が「全国に先駆けて遠隔医療センターを開設し、国内47施設、海外4施設と医療機関連携を行うなど遠隔医療の全国的な普及に尽力した」として「情報通信月間」総務大臣表彰を受賞

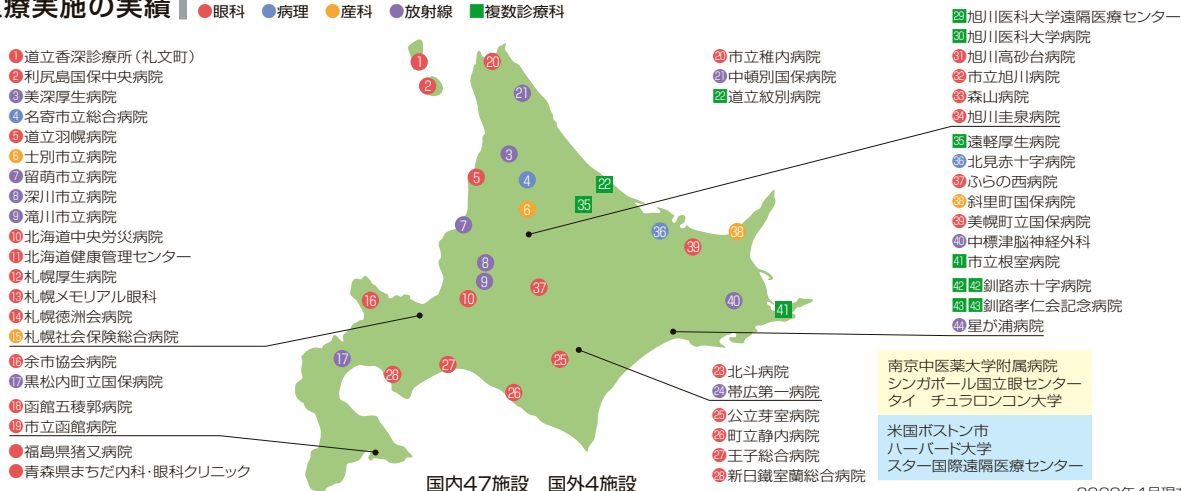
安心して在宅療養が 受けられるように

2007年5月から2年間にわたり、更なる「医療の均てん化」を目指した新しい遠隔医療ネットワークの研究開発「衛星インターネットを用いた離島・過疎地向け遠隔医療支援」を進め、遠隔医療に適した安全かつ効果的な遠隔医療ネットワークシステムを研究開発しました。モバイルネットワーク（携帯電話網）経由で認証鍵を使用した遠隔医療用セキュリティシステムの研究を進めるとともに、画像・音声の品質最適化、また、伝送遅延の緩和システムの研究開発を行いました。

2009年から入院患者様が早期に退院しても在宅のままでフォローアップできる体制、すなわち、その患者様にとって必要な医療情報をリアルタイムで遠隔医療センターへセキュリティが保証された状態で伝送・蓄積する技術並びに異常値が自動検出され、医師及び患者本人へアラーム（通報）するシステムを研究開発し、患者様が安心して在宅療養できる環境を推進しております。



遠隔医療実施の実績



ドクターヘリ誘致に向けた協力病院としての取り組み

平成20年8月28日、旭川医師会を中心に、医療機関、各自治体、その他関係機関等による「道北ドクターヘリ運航調整研究会」が設立されました。旭川医科大学病院は、理念でもある「次世代を担う医療人の育成」のため、また、崩壊しつつある地域医療の最後の砦として道北にドクターヘリを導入し、地域医療を担う特定機能病院としての役割を發揮するため、本研究会の役員として全面的な協力することとしました。

活動としては、道北地域53の市町村と1団体からの同意をもとに、同年10月28日に、旭川市医師会の会長、旭川赤



北海道庁知事会議室にて

十字病院の院長、そして本学の学長、また、道議会議員5名の同席のもと、北海道庁の知事会議室にて、知事に直接要望書を手渡しました。

その結果、厚生労働省及び北海道のご支援により、平成21年度、旭川を基点とした道北地区、また、釧路を基点とした道東地区と、北海道に対して2機のドクターヘリが配備されることとなりました。

ドクターヘリ関連施設とヘリポートを本学に設置

ドクターヘリ事業では救命救急センターである旭川赤十字病院が基地病院ですが、旭川赤十字病院では敷地の確保が難しいことから、平成21年2月17日開催の道北ドクターヘリ運航調整研究会の役員会において、本学・本院に関連施設（格納庫、給油施設等）の建設用地としての敷地提供等と、ヘリポート設置の要請がありました。

このドクターヘリ事業は、本学の建学精神である「道北・道東地区における高度先端医療の提供と医療過疎地の解消」にふさわしく、非常に意義のある事業であることから、平成

21年2月18日開催の役員会に諮り、承認を得たうえで、申入れを快く受け入れることとしました。

今後は、平成21年10月の運航開始を目指し、協力病院として市立旭川病院、旭川厚生病院とともに、基地病院である旭川赤十字病院と連携し、医療の地域格差を少しでも解消できるよう、道北圏である56市町村を対象に、運航体制の整備を図っていきます。



道北ドクターヘリ運航圏 16消防56市町村



試験運航において、搬送された傷病者をドクターヘリから救急車へ移送



日勝峠で発生した交通事故が複数傷病者のため、札幌ドクターヘリと合流(手前)

大学概要

旭川医科大学は道北・道東の中心に位置し、豊かな自然の中で活動をしています。

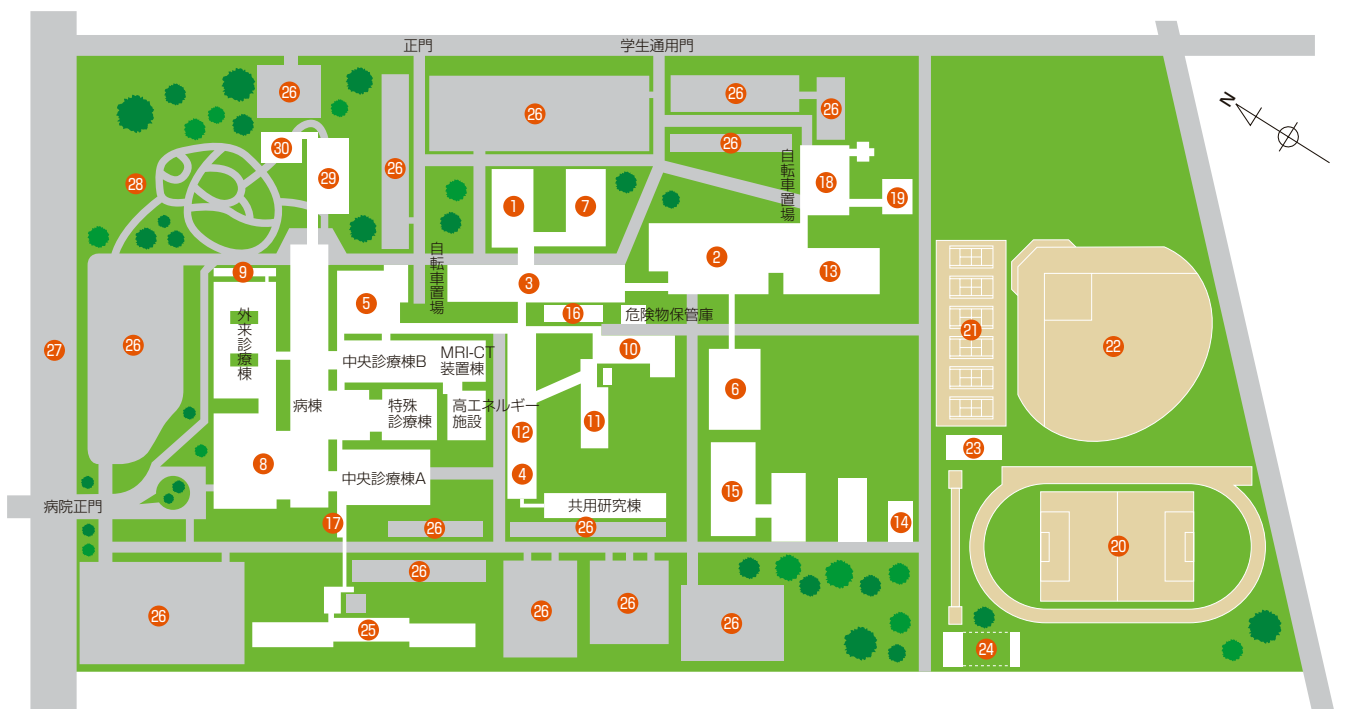
全学をあげて環境に配慮した事業活動を行うとともに、人と自然の調和を目指す医療人の育成に取り組んでいきます。

位置図



キャンパスマップ

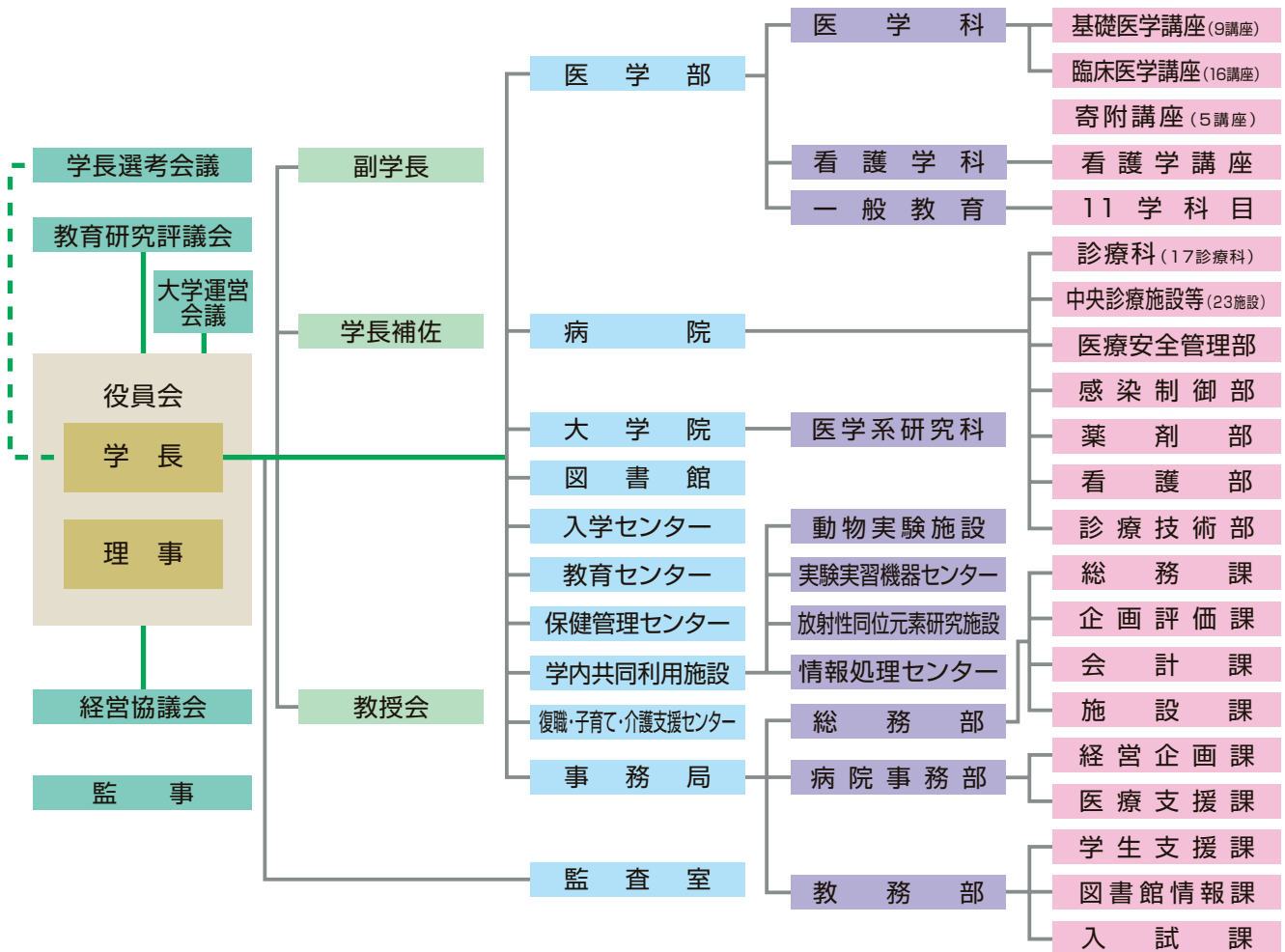
- | | | |
|------------|---------------|-----------------|
| ① 本部管理棟 | ⑪ 放射性同位元素研究施設 | ⑳ テニスコート |
| ② 講義実習棟 | ⑫ 実験実習機器センター | ㉑ 野球場 |
| ③ 基礎臨床研究棟 | ⑬ 福利厚生施設 | ㉒ 体育管理施設 |
| ④ 臨床研究棟 | ⑭ 犬舎 | ㉓ 弓道場 |
| ⑤ 臨床講義棟 | ⑮ 中央機械室 | ㉔ 看護師宿舎 |
| ⑥ 看護学科棟 | ⑯ 廃棄物保管庫1 | ㉕ 駐車場 |
| ⑦ 図書館 | ⑰ 廃棄物保管庫2 | ㉖ 環状1号線 |
| ⑧ 病院 | ⑱ 体育館 | ㉗ 屋外リハビリテーション施設 |
| ⑨ 遠隔医療センター | ㉚ 武道場 | ㉘ 共通棟 |
| ⑩ 動物実験施設 | ㉛ 陸上競技場 | ㉙ 保育所 |



〈エゾタカネスマシ〉
大雪、夕張、日高山系と羊蹄山に生える多年草で、緑のない裸地を好む。黄色の花はよくめだち、遠くからでもすぐにそれとわかる。



組織機構図



大学概要

法人役員数等

平成20年5月1日現在

■法人役員数

学長	理事	監事	計
1	4(1)	2(1)	7(2)

※()内は非常勤役員で内数。

■学部学生数

区分	入学定員	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計
医学科	100	97	95	94	95	99	102	582
看護学科	70	60	60	71	69			260
計		157	155	165	164	99	102	842

■大学職員数

学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	事務・技術職員	技能・労務職員	医療技術職員	看護職員	合計
1	(2) 2	51	45	40	130	165	21	66	473	(2) 994

※()内は教授と兼務で外数。法人役員(学長・副学長)を含む。

■大学院学生数

区分	入学定員	1学年	2学年	3学年	4学年	計
博士課程	15	26	22	15	21	84
修士課程	16	24	13			37

※博士課程の入学定員は平成18年度まで30名

大学教育及び病院理念と目標

大学の教育理念

豊かな人間性と幅広い学問的視野を有し、生命の尊厳と高い倫理観を持ち、高度な知識・技術を身につけた医療人及び研究者を育成する。また、地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する医療者を育てる。さらに、教育、研究、医療活動を通じて国際社会の発展に寄与する医師及び看護職者の養成に努める。

大学の教育目標

旭川医科大学は上記の理念の下にこれらを達成するため、次のような目標を掲げる。

1. 幅広い教養とモラルを養うことにより、豊かな人間性を形成する。
2. 生命の尊厳と医の倫理をわかまえる能力を養い、病める人を思い遣る心を育てる。
3. 全人的な医療人能力や高度な専門知識を得るとともに、生涯に亘る学習・研究能力を身につける。
4. 幅広いコミュニケーション能力を持ち、安全管理・チーム医療を実践する資質を身につける。
5. 地域・僻地住民の医療や福祉を理解し、それらに十分貢献しうる意欲と能力を獲得する。
6. 積極的な国際交流や国際貢献のための幅広い視野と能力を習得する。

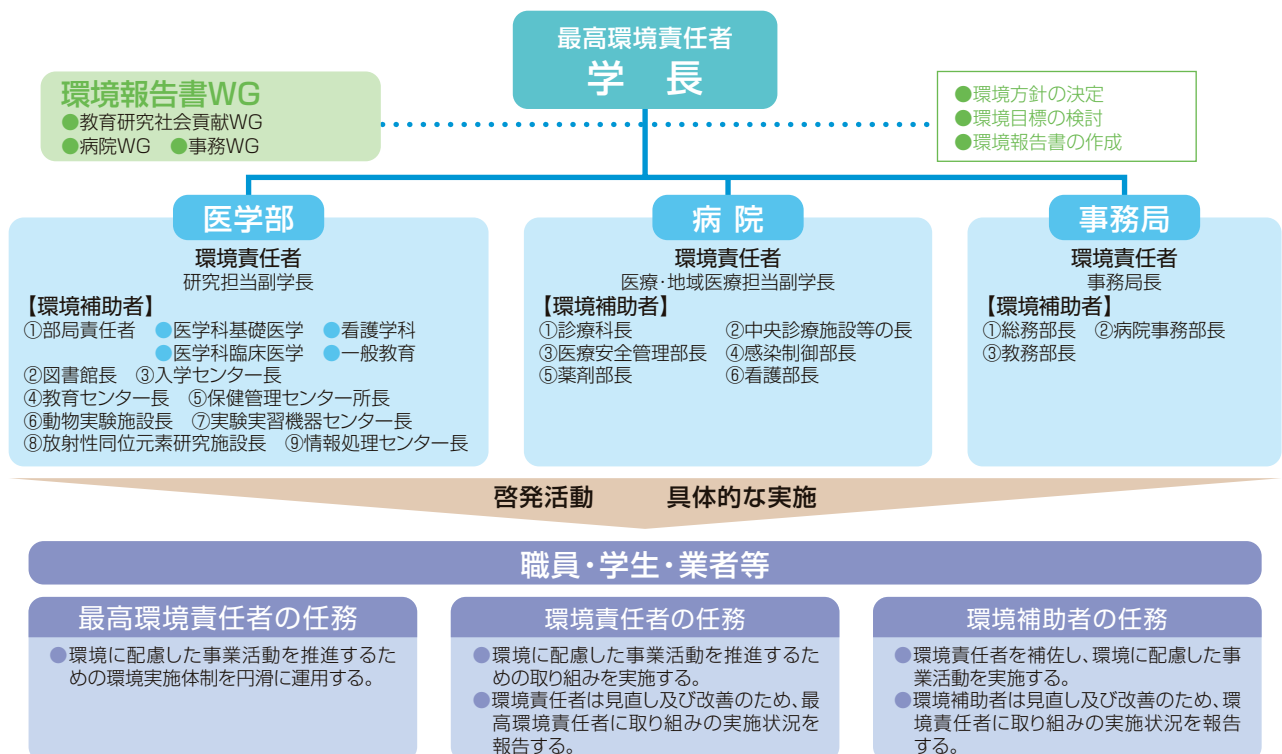
病院の基本理念

大学病院としての使命を認識し、病める人の人権や生命の尊厳を重視した先進医療を行うとともに、次代を担う国際的にも活躍できる医療人を育成する。

病院の目標

1. 病める人を思い遣る患者中心で心の通い合う医療を行う。
2. 全人的医療と先進医療との調和を図り、人間本位の医療を提供する。
3. 予防・健康医学などに積極的に取り組み、地域医療や福祉の向上に寄与する。
4. 病める人の人権を尊重し、生命の尊厳がわかる人間性豊かな医療人を育成する。
5. 未来の医療を創造し、その成果を国内外に発信する。

実施体制



WG:ワーキンググループ

〈エゾノツガザクラ〉
高さ5～30cmの常緑小低木で、森林限界よりも高所に生育する。花が咲いていないと低木の針葉樹と見誤る。



環境目標及び実施計画並びに評価結果（平成20年度）

平成21年3月31日

目 標	実施計画	自己評価	
		学部	病院
環境教育等の充実	■「環境科学」、「環境保健学総論」等の講義開講	◎	—
	■医療廃棄物処理施設での実地学習	◎	—
	■環境問題についてオープンキャンパス模擬授業の実施	◎	—
	■環境に関する研究	◎	—
	■大学敷地内全面禁煙	○	○
	■旭川市都市計画審議会委員として地域社会への貢献	◎	—
エネルギー等の削減	■学内放送等により節電を呼びかける (学内放送と職員による学内点検を行う)	○	○
	■照明の適正管理 (各室内不在時の消灯、残業時不要箇所の消灯等)	○	○
	■地下水利用の計画	○	○
	■両面プリンターの導入促進 (用紙の両面利用「コピー・プリント」の呼びかけ)	○	○
	■ペーパーレス化の推進 (学内連絡・会議資料のメール配信)	○	○
廃棄物の削減	■廃棄物分別の徹底及び回収 (実験系廃棄物・医療系廃棄物・一般廃棄物)	○	○
	■不要物品の学内再利用の推進	○	○
	■実験廃液の回収の徹底	○	—
	■不要薬品の処分の徹底	○	○
	■再資源可能ゴミの回収の徹底	○	○
その他	■夏期及び冬期の室内温度の徹底(病室は除く)	○	○
	■隣接階のエレベーター使用を控える(患者さんは除く)	○	○
	■環境改善対策実験用附帯機器の改善	◎	◎
	■ガスボンベの安全管理	○	○
	■薬品の安全管理	○	○

注:自己評価の、◎印は目標を充分達成している、○印は目標を達成しているが改善の余地あり。
△印は目標を達成していない、—印は該当なしを示す。

教育・研究・社会貢献における環境への取り組み

教育・研究における環境への配慮

旭川医科大学は、環境問題に関わる疾患の研究に力を注ぎ、地方病といえるエキノкокクス症の研究などに成果を上げています。その成果は学生に対する環境教育にも活かし、地球環境問題にも配慮する医療人の育成を目指しています。

エキノкокクス症の研究:北海道から全世界へ

全学をあげてのエキノкокクス症研究

エキノкокクス症には肝臓が石の塊のような多包虫症と肝臓に水がたまる単包虫症があります。多包虫症は熱帯地域を除く北半球のほぼ全域で流行しており、国内ではこれまでのところ北海道特有の地方病で、毎年約20人前後の新規患者が認定されています。多包虫症は肝細胞がんと鑑別が困難な悪性の寄生虫感染症で、我が国では、道内に生息しているキタキツネやイヌから排泄されるエキノкокクス条虫(多包条虫)の虫卵をヒトが何らかの機会に経口摂取して感染が成立します。多包虫の病巣は肝臓ばかりでなく肺や骨髄にまで多発性に形成されることと、外科的切除が唯一の治療法という現状からは、がんと同様に早期の診断と治療が重要なポイントとなります。

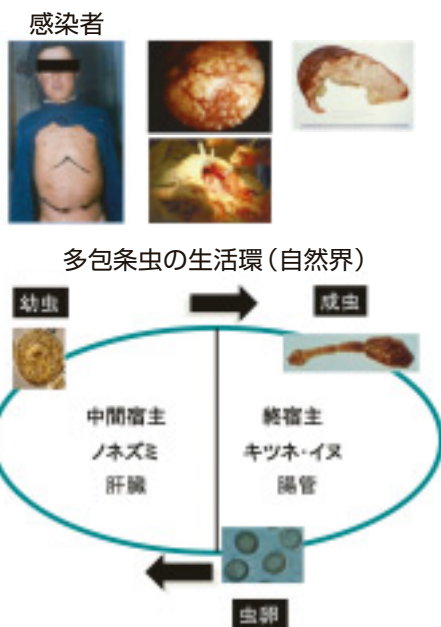
本学寄生虫学講座では、エキノкокクス症に対して感度と

特異性の高い血清検査法の開発が進められてきました。希望者全員の血清検査が実施されれば我が国のエキノкокクス症対策指針策定に大きく役立つと期待されます。このように、当講座では医学部における研究という観点から、感染者や患者を正確に把握できる検査法を開発し、患者様の早期診断、予後の判定を目標とする研究を展開し、臨床講座での診断、治療に全面的に協力し、全学体制でのエキノкокクス症への取り組みを可能にできています。

共同研究をリードする国際的な拠点として

さらに本寄生虫学講座は、エキノкокクス症対策を中心に国際的なリーダーシップも発揮してきています。現在、WHOエキノкокクス症非公式作業部会における「アジアにおけるエキノкокクス症免疫診断、遺伝子診断レファレンスセンター」に指定され、アジアを中心に全世界とも共同研究を展開しています。これらの内容を次の3点にまとめます。

1) 血清検査法(多包虫症)では、国際的に最も信頼性が高いものを確立したとして評価されています。この検査法は特異性が非常に高く、1度の検査で95%以上の確率で患者様を特定できます。また、これを治療後の予後判定モニタリングに応用することで、病巣が完全に取り除かれているかどうかを半年以内に判定できることも国内外の医療機関、医育機関、本学消化器・血液腫瘍制御内科学分野との共同研究から判明しています。さらに、特別な設備を必要とせず血液一滴から20分以内で結果が出る、非常に信頼性の高い迅速検査キットが開発されています。この研究は平成19年度から文科省特別予算で展開されている「北海道内3大学(北大医学部、札幌医大、旭川医大)の橋渡し先端医学・



〈ミヤマリンドウ〉
低山から亜高山帯の、日当たりが良く背の低い草地に生える、背丈10cm程度の多年草。遅めに咲く花で、茎先端に複数咲かせる事が多い。



医療研究」において、「エキノコックス症に関する迅速診断キット開発事業」として採択され、迅速検査キットは完成しています。2009年夏以降から北海道内3大学の橋渡し先端医学・医療研究のひとつとして、道内3大学病院で外部評価が始まります。住民の経済的・精神的負担、苦痛を大幅に軽減できる検査法を北海道内での住民検診、海外の流行地の住民に自由に応用できる時代がまもなくやってきます。

肝臓に水がたまる単包虫症もエキノコックス症で、単包虫によって引き起こされます。牧畜が盛んな全世界で流行しています。ヒトへの感染源はイヌです。それゆえ、感染者の数は多包虫症と比較にならないほど多いのです。単包虫症に関する血清検査法でも、診断抗原の特定、遺伝子クローニング、遺伝子組み換え抗原作製、診断用抗原としての評価研究を通して、現在、国際的に最も信頼性が高いものを確立しています。アジアでは、中国、モンゴル、ロシア、旧ソ連の近隣諸国、特に中央アジア各国が大流行国です。単包虫症に関する迅速検査キットの開発も進めています。

2) 遺伝子診断法の確立でも最先端の実績を有しています。全世界に分布しているエキノコックス条虫の遺伝子解析を展開し、これまで曖昧になっていた種の再検討を試みました。この中で、中国チベット高地から新種エキノコックス条虫 (*Echinococcus shiquicus*) を発見し、またアフリカのライオンに寄生するエキノコックス条虫も独立種 (*Echinococcus felidis*) として再評価しました。このような基礎的な研究からヒトへの病原性を遺伝子レベルで解析することも可能になるかもしれません。これらの免疫診断、遺伝子診断研究の実績に基づき、2000年～2005年、引き続き2005年～2008年までの計8年間、米国公衆衛生研究所 (USA-NIH) の「RO1感染症の伝搬生態、疫学研究:中国におけるエキノコックス症研究」(代表、英国サルフォード大学Craig教授)の血清診断、遺伝子診断責任者として参加してきました。USA-NIH研究費による2005年以降の研究成果として発表された約50編の国際共同研究論文のうち25編以上の論文に参加しております。現在は未公表の研究成果のまとめ(論文公表)に追われています。

3) 摘出直後の病理標本を用いる実験動物への感染実験、病態を異にするエキノコックス包虫の実験室内での維持を含めた病態解析の研究も実施されています。現在、実験動物体内での新種エキノコックス、多包虫、単包虫の比較発生の学的研究を展開しています。

環境問題としてのエキノコックス症への取り組み

本学では、画像所見と血清検査所見に基づいて患者様を確認することで早期治療を試み、さらには外科的に切除された肝病巣の病理所見に加え、そこからの遺伝子検査を実施しています。これらすべての検査が同一医育、医療機関で実施できるのは、国内では本学だけです。世界でも他にはスイス、ドイツそれぞれ1研究機関でしょう。

文部科学省の科学技術振興調整費「国際リーダーシップの確保:アジアにおける難治性寄生虫病流行戦略」(2003-2005)、日本学術振興会の「アジア・アフリカで流行している人畜共通寄生虫病研究拠点形成(アジア・アフリカ学術基盤形成事業)」(2006-2008)、「アジア・アフリカで流行している人畜共通寄生虫病研究拠点形成II(アジア・アフリカ学術基盤形成事業)」(2009-2011)を通して、アジアのみならず全世界から若手研究者を受け入れ、技術移転を通して国際交流、研究者ネットワークを構築してきています。主な目的はEvidence based Medicineの立場からエキノコックス症、脳嚢虫症患者の確認と予防対策を通しての環境問題への取り組みです。

環境問題としてエキノコックス症を考える場合、患者様の確認が正確にできない限り、道内でのエキノコックス症の流行動態を統計学的に議論することは困難であると考えています。たとえキツネが感染していても、そこに住むヒトが感染しない限りはキツネの寄生虫でしかなく、ヒトの寄生虫として問題にならないからです。しかし、実際にはエキノコックス症はヒトならびに動物に共通して感染する、人獣共通感染症です。それゆえ、動物(感染キツネ、イヌ、ノネズミ)ならびにヒト(感染者)の両方を指標として環境汚染を総合的に評価しなければならないと考えています。

学生に対する環境関連の教育

共通科目としての環境教育

本学は「豊かな人間性と幅広い学問的視野を有し、生命の尊厳と高い倫理観を持ち、高度な知識・技術を身につけた医療人および研究者を育成する。また、地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する医療人を育てる。さらに、教育、研究、医療活動を通じて国際社会の発展に寄与する医師及び看護職者の養成に努める。」との教育理念のもとに教育・研究・地域貢献に取り組んでいます。

医学科と看護学科の学部学生の選択共通科目として「環境科学」が、第1・2学年に開講され、化学、健康科学、微生物学、寄生虫学講座からそれぞれの領域の専門教員が分担し15回のオムニバス形式で講義を行っています。

講義では20世紀以後の人間活動による地球環境の変化を理解し、地球環境問題解決の糸口を探る事を到達目標とし、人間活動から派生する環境問題の歴史的経緯から、人口問題、食料問題、資源・エネルギー問題、環境破壊・汚染問題などを考えます。さらに種々の汚染物質による地球上の生物への影響を実例を通して学び、代表的汚染物質の代謝と健康障害の発生の仕組みを理解します。最後に、身近な環境生物と人間の疾病の関わり、地球環境の変化により疾病に関わる環境生物の動態の変化を理解します。医学的な切り口から、地球環境問題が生物の一員である人類の健康に直結する最重要課題の一つであることを認識させる導入の役割を果たします。(平成21年度選択科目履修要項P9)

医学科における環境教育

医学科第2学年必修科目である「生命科学実習V」の中で、健康科学講座が担当して、環境衛生学実習として医療廃棄物処理施設を訪れる取り組みを行っています。本学の医療廃棄物処理を担った実績のある実際の廃棄物処理現場を見学し、担当者による説明を受けた後の討論を通して、特に医学研究・医療機関の研究・診療活動から排出される医療

廃棄物の不適切処理が、廃棄物処理業に従事する作業者の安全と健康を損ない、さらには地域住民の安全と生活環境の破壊につながることから、安全性・環境保全性を考慮した適切な処理が必須の基本事項であることを学びます。学生のうちから医療人を目指す者として認識を高めることを意図しています。(平成21年度医学科履修要項P52)

医学科第3学年必修科目「臨床医学概論II」において、環境保健学総論、環境破壊と人の健康として2回の講義を行い、人を取り巻く環境と人の健康との相互作用について再認識することを目標としています。この中で、最近のトピックスとして内分泌かく乱化学物質による健康障害、シックハウス症候群についても触れています。人の健康の保持増進に携わる医療人としての環境保全に対する正しい認識と行動における責任を学ぶことを目指します。(平成21年度医学科履修要項P79)



医療廃棄物処理施設を見学する学生

〈エゾノハクサンイチゲ〉
高山の草地に生える多年草。
7月はじめに北海道各地の
高山で満開となったエゾノ
ハクサンイチゲの群落を目
にすることができる。



シックハウス症候群の研究

シックハウス症候群はホルムアルデヒド等の化学物質の他、湿度環境や生物学的要因など様々なものが原因となり発症します。2003年度より、北海道、福島、名古屋、大阪、福岡の5地域が参加する疫学研究が厚生労働科学研究で行われており、旭川医科大学健康科学講座も参加しています。

北欧では、住環境の健康影響の研究と対策が進んでいて、湿度環境の悪化によるカビ等の健康影響について注目が集まっています。日本に比べて建築物を長年にわたり使用する影響もあると思われますが、結露の生じやすい住宅、水漏れが生じた住宅、カビ臭い住宅には、シックハウス症候群が発生しやすいことが報告されています。本講座では、スウェー

デン・オレブロ大学のアンダーソン先生が開発した質問調査票を用いてシックハウス症候群の調査を行い、北海道の集合住宅でも結露の発生、カビの発生、水漏れ等の湿度環境悪化のサインが症状の出現に関連していることがわかりました。湿度環境が悪化すると、建材のダメージが生じて、化学物質が発生しやすくなることや、また、カビ等の微生物、ダニ等のアレルゲンが室内に増加することで、シックハウス症候群が生じやすい室内環境になると考えられます。また、小学生向けのシックスクール症候群質問調査票による調査も行っていて、今後、学校の室内空気環境を調査し、環境の改善に役立てる予定です。

環境関連調査

(社)国土緑化推進機構の2008年度「緑と水の森林基金」事業助成金を受けて、特定非営利活動法人(NPO)健康保養ネットワークが、「森林の健康増進効果の調査とその普及」と題する事業を行い、NPOの副理事長である健康科学講座の吉田真彦教授が事業代表を務めました。事業の内容は、2008年度に大阪府吹田市及び岡山県岡山市での「国土緑化・森林環境にかかわる講演会」の開催、国土緑化・森林環境の健康影響に関する専門家による研究成果報告書の作成、日本の森林緑化推進施策の方向性の策定に資するため、森林・緑に対する国民の知識と意向を学術的に調査する「国民知識意識意向学術調査」からなります。

今ほど、社会から受けるストレスの大きさ、生活習慣の悪化による国民の心身の健康度の低下が危惧され、健康の保持・増進が求められている時代はありません。また、環境の世紀といわれる21世紀に入り、地球温暖化が原因と考えられる異常気象が多発、国民の環境への意識は高いことがうかがえます。さらに、国民の森林・緑に関する知識、意識、行動・態

度の形成において、幼小児期の森林・緑への好感的な接し方、及び家庭や学校などでの日常生活において木質に親しみやすい環境が、成人後の森林や緑に対する好感度を高めるように関連することが推測されました。また、幼少期に森林や緑に接する機会を多くもっているか、木材の使用が多い生活環境にあると、成長後の生活習慣が健康維持上、良好となる傾向が見られました。自然・資源などを大切にする心(意識)が自らの心身を大切にするにつなげるとも考えられます。

国民の健康度を向上させ、代替医療の範疇に含まれる森林療法などを国民の健康づくりに活用することを普及するためにも、幼小児期から積極的に森林・緑・木質へ親しむ習慣づけが有効と考え、次年度には、北海道と和歌山県での講演会の実施と、森林や緑に対する意識の良し悪しが、将来の森林や緑の在り方についての意識にどのように影響しているかを検証することで、森林や緑・木質などの自然や資源を守りつつ持続的発展を可能にする施策の決定に資する調査を行いたいと考えています。

社会・環境コミュニケーション

旭川医科大学は地方公共団体などの機関と連携し、地域住民の生涯学習へのニーズを満たし、健康や環境問題について啓発をするための派遣講座を北海道全域で行っています。

旭川医科大学派遣講座

旭川医科大学では、地域社会との連携強化、また、地域社会への知的啓発活動の一環として、地域住民を対象とした派遣講座を実施しています。

派遣講座は、本学の教員等が地方公共団体等の求めに応じ、さまざまな内容の講演を行うものです。内科外科などの臨床医学分野をはじめ、青少年の諸問題、看護学等、多彩な医学分野のほか、語学や数学といった講座もリストに加えています。

詳細は本学ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/>

以下、健康科学講座の吉田貴彦教授が行った講座の様子を紹介します。

■電磁波による健康影響

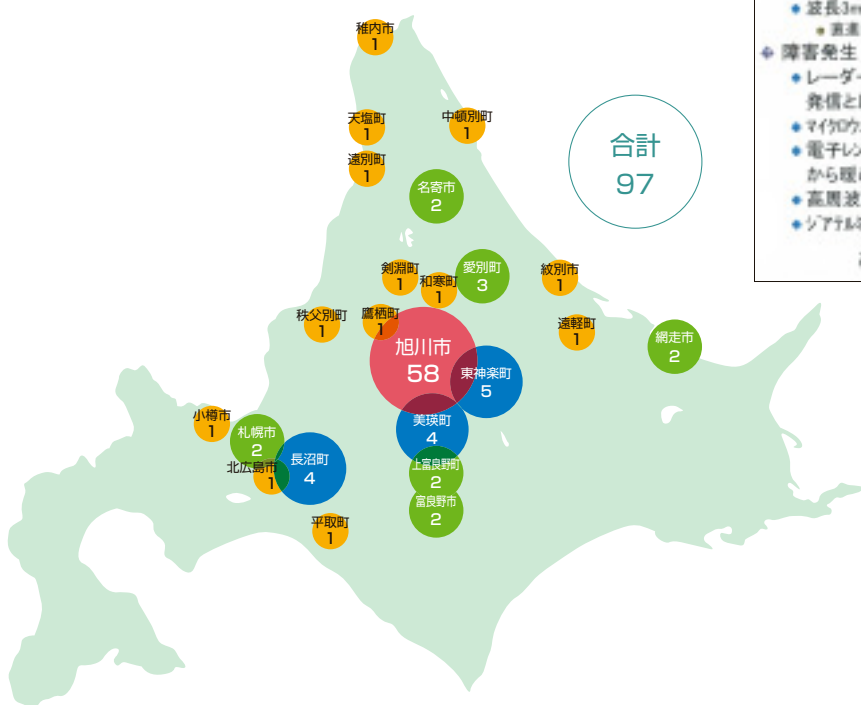
(2008年11月6日、平成20年度北海道市長会・保健衛生担当係長等研修会)

可視光線や赤外線および紫外線は身近にあり、健康への害も理解しやすいです。またレントゲン線やγ線といった電離放射線の健康被害は広く知られています。しかしこれらの光や放射線が同じ電磁波に属し、波長が異なるだけであることは理解されにくく、さらに同じ電磁波に属する、放送や通信用の電波の健康への影響は理解が進んでいません。そこで携帯電話などに使われるマイクロウェーブなどが健康に及ぼす影響を考える必要性について学びました。

マイクロ波による健康障害

- ◆ マイクロ波
 - ◆ 電磁波のうち一番波長の短い電波帯域
 - ◆ 波長3mm～3mまで(100MHz～100GHz)
 - ◆ 透過性、反射性、高周波数
- ◆ 障害発生
 - ◆ レーダー：強力なパルス状マイクロ波の発信と反射波の受信
 - ◆ マイクロウェーブ通信：省エネ、高密度情報通信可能
 - ◆ 電子レンジ：2450MHz、水分を含む物を内部から暖め・乾燥
 - ◆ 高周波溶着
 - ◆ シアトリート療法

高周波溶着装置 パラボリアンテナ



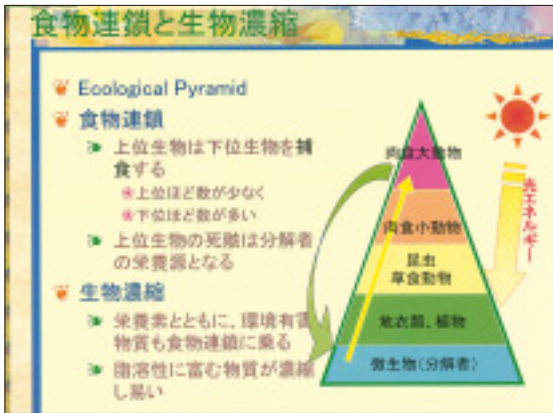
〈エソコザクラ〉
お花畑を代表する花の一つで、
森林限界より上部に見られ、
雪田や湿性草原中に群生する。
草丈は10cm程度で、根際
に10枚前後の鋸歯のある
へら形の葉がある。



■環境とヒトの健康

(2008年11月13日、旭川西高等学校)

環境問題に興味を持ち課外授業として自主学習する生徒を対象に、派遣講座を行いました。人の健康のとらえ方にふれた後、健康に影響を及ぼす環境要因を身近な例を挙げながら生物・化学・物理要因ごとに概説し、環境保全が健康を守る上で大切なことを学び、環境と共存しながら人はいかに生きていくべきかを考えるきっかけとしてもらいました。



■子どもの発育と生育環境

(2009年3月23日、旭川市民生委員児童委員連絡協議会 青少年・婦人部会主任児童委員連絡会議研修会)

子どもが成育する環境が発育に与える影響について、環境汚染化学物質から社会的環境まで広い視野で捉え、社会での子どもの育成の際に考慮すべき事柄を説明しました。

子どもの特性(環境との関連から)

- 母体から移行した蓄積を背負ってスタートを切る
 - 妊娠中に胎盤を介して
 - 哺乳中に母乳を介して
- 子どもは発育期にある
 - 身体が小さい
 - 機能が劣る: サイズ、効率ともに劣る
 - 新陳代謝が大きい: 物質の体内への出入りが大きい
- 特異的な化学物質曝露
 - 発達期特有の行動(異食症)

教育・研究・社会貢献における
環境への取り組み

VOICE

平成20年度の開催講座から～参加者の声(一部)

演題	講師名	所属	日時	会場	参加者数	実施者・参加者の声
老化と腰痛	熱田 裕司講師	整形外科	平成20年 6月29日(日)	ときわ 市民ホール (旭川市)	60名	難しい用語を使わず、年配の参加者にもわかりやすい内容で、とても有意義な講演会となった。講演中に実技(予防体操等)を試せるような流れを組み入れると、さらに喜ばれると思う。
医療について 一病院ではたらく 医療職を 目指す人へ	坂本 尚志教授	入学センター	平成20年 8月20日(水)	札幌旭丘 高等学校	25名	医学部志望の生徒を対象に、医師に求められる資質等が具体的かつ親切に展開されていた。ワークショップという学びの形態は生徒にとって初めての体験であり、効果的な講座となった。看護・医療保健等其他の分野の志望生徒に対しても同様の授業の実施を希望したい。
子供がかかえる 睡眠の問題について	田中 肇講師	小児科	平成20年 9月5日(金)	稚内市役所	107名	宗谷のように専門職がない管内で、住民や関係機関のニーズに対応した研修会を実施するにあたり、派遣講座は非常に活用しやすいシステム。
死生観	阿部 泰之助教	緩和ケア診療室	平成20年 12月17日(水)	ときわ 市民ホール (旭川市)	45名	アイヌ人の死生観から「人の死」を学び、先生自体、参加者の意見も聞きたいということで討論会となった。重いテーマだが活発な討論になった。今後、青少年や家族関係をテーマにした講義があったらいいと思う。
炭酸ガスを 多量に含む 温泉(炭酸泉)浴の 効果	橋本 眞明准教授	生理学	平成21年 1月20日(火)	神居公民館 (旭川市)	45名	炭酸水生成装置を使い、炭酸水と水道水での温まり方の違いを体験できるなど、炭酸泉の機能を十分に学ぶことができた。受講対象者の世代(60才以上)に絞った内容の講座も多く設定してほしい。

病院における環境への取り組み・社会貢献

品質・安全向上への取り組み

旭川医科大学病院は道北・道東唯一の特定機能病院です。高度な医療を望まれる患者さまの希望に応えるため、日々専門的・先進的な治療の研究に取り組みながら、常に患者さま中心の医療サービスの提供に努めています。

呼吸器センターの設立

呼吸器専門医の不足が深刻化

平成17年の全国統計で傷病分類別に見る呼吸器疾患の受療率が入院、外来ともに循環器、消化器を抜き第一位になりました（厚生労働省調査、厚生指標、国民衛生の動向2007年第54巻第9号）。このような医療情勢の変化に対応して、将来を見据えた対策を講じることは極めて重要です。平成21年の財務省主計局の資料によると、首都圏、関西圏などの首都部では概ね全国平均を上回って医師数が増加していますが、地方部での増加は全国平均を下回っていると報告されています。また、診療科別では、精神科、泌尿器科、皮膚科、整形外科は増加率が高いのに対し、小児科、内科は増加率が低く、外科と産婦人科は10%程度減少していると報告されています。内科の中でも医師数が少ない診療科と多い診療科があります。このような、医師の偏在化と診療科の偏りが我が国の医療の質を下げる事態が憂慮されています。増加しつつある呼吸器疾患に対して、高い専門性が要求される呼吸器専門医は全国的に不足し、特に地域医療での呼吸器診療の困窮は極めて深刻です。

全国の潜在的な閉塞性肺疾患患者は530万人程度とされています。この数字は、統計によって異なりますが、気管支喘息の有病率にも匹敵するものです。慢性的な咳を訴える呼吸器患者が全国的に増加しており、診療に苦心されている医師が多くいると思われ、将来的には同じくらいの数の閉塞性肺疾患患者が病院を訪れる事態が懸念されます。530万人の潜在的閉塞性肺疾患患者のうち、受療している患者はわずかに20万人程度であると概算されています。潜在的な呼吸器疾患の多さもさることながら、現在急激に増加している呼吸器疾患に肺がんと呼吸器感染症が挙げられ

ます。我が国では、肺がんで年間7万人以上が死亡していると考えられています。また、人口の高齢化に伴って、肺炎による死亡率が上昇しています。これらの増加しつつある呼吸器疾患を診療する体制の整備が急がれますが、全国的に呼吸器科医が足りません。学会専門医を例にとると、消化器学会の約1万5,000名、循環器学会の約1万名に比べ、我が国での呼吸器学会専門医は約5,000名とされており、将来の呼吸器疾患の増加に対する対策が急務と考えられます。

呼吸器疾患のリスクは高まっている

1950年代から2000年まで使用が続いた石綿による関連疾患が、徐々に国民の健康をむしばんでいます。石綿による健康被害は、将来悪性中皮腫、肺がんの発生を押し上げるとされています。今後、石綿関連疾患による年間死亡数は2万人前後に増加すると試算されており、現在ですら、肺がん治療施設の不足が指摘されていますが、さらに肺がん死亡率に上乘せする事態に対応しなければなりません。喫煙も国民に課せられた健康に対する避けられないリスクとして、今後30～40年にわたって呼吸器疾患の発生を増加させ続けることでしょう。

近年、人類を襲った急性感染症で印象に残る疾患に、SARS、H5N1高病原性鳥インフルエンザ、新型H1N1インフルエンザがあります。SARSはコロナウイルスに属するSARSウイルスによる感染症で、重症呼吸器感染症を発症し、死亡率は30%程度でした。H5N1高病原性鳥インフルエンザは新ヒトウイルスに新型化する可能性は低いとされていますが、鳥では致死率100%、ヒトに感染した場合はウイルス肺炎とサイトカインストームを発症して致死率は60%

〈ホンバ(ウルフソウ)〉
砂礫地や草原に生える多年草で、大雪山を代表する花の一つである。穂状についたたくさんの小さな青紫色の花が下から上へと咲きあがる。



程度と報告されています。新型H1N1インフルエンザは幸いにして心配されたほど病原性は高くないようですが、それでも季節性インフルエンザと同等かそれ以上の0.2%程度の死亡率とされています。新型H1N1インフルエンザでは、重症基礎疾患のある症例で死亡例が多くみられています。ここでの重症な基礎疾患とは気管支喘息、肺気腫などの呼吸器疾患が多く含まれます。インフルエンザでは、感染力が強まって、罹患者が増えると、一定の割合で死亡症例が発生します。このように、新興感染症の治療の備えとしても、呼吸器診療の充実が大変重要な課題なのです。

人材育成へ向けて～呼吸器センターの設立

呼吸器疾患の診療は、自覚症状が強いこと、進行が速い疾患が多いこと、進行が生命の危険に直結すること、診断が難しい疾患があることなどから、専門性の高い分野です。各医療機関がどんなに頑張っても、将来の診療状況に応じた呼吸器診療体制を短時間に整備することは困難です。呼吸器診療にこそ、効率の優れた医療体系の構築が必要です。医療機関が密接に協議を繰り返して、国民が安心して呼吸器疾患の診療を受けることができるように、病病連携、病診連携、センター病院の配置と整備を考える必要性が高いと思われます。

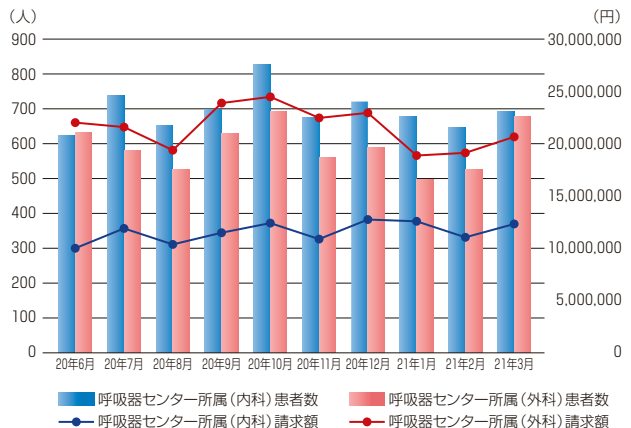
旭川医科大学では平成20年5月に、呼吸器内科と呼吸器外科からなる呼吸器センターを設立しました。呼吸器センターの使命は、呼吸器専門医を育成し、旭川医科大学での先進



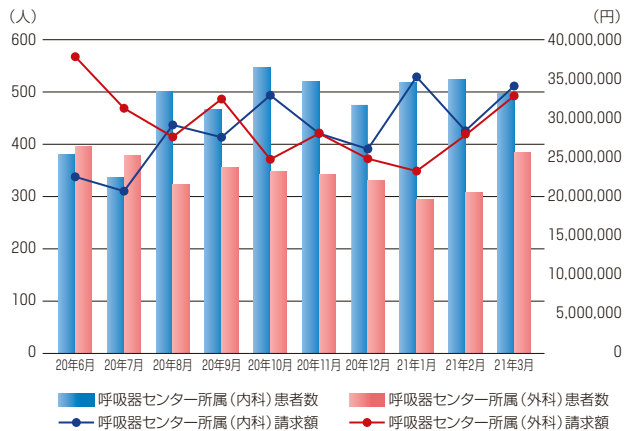
平成21年度呼吸器センタースタッフ

的な呼吸器診療を展開することとともに、緊密な病病連携、病診連携を構築することで呼吸器診療の充実をはかることです。呼吸器診療科を立ち上げることで、呼吸器診療に興味をもつ若い医師の進路の選択肢を広げることができ、呼吸器科を志望する後期研修医と臨床研修医に加わってもらうことができました。また、先進的な呼吸器診療を展開することで、新患の受診と紹介が増加した結果、診療単価の伸びと診療患者数の増加がみられ、大学病院の収入増加に大きく貢献することができました。今後は、さらに診療の充実を図るとともに、臨床研究と基礎研究の発展により我が国の医療の進歩に貢献するために研究実験室の充実や臨床指導者、研究指導者などの人的な充実が必要と考えています。

■平成20年度の呼吸器センター外来診療実績



■平成20年度の呼吸器センター入院診療実績



地域がん診療連携拠点病院としての活動

道北をカバーするがんの拠点病院へ

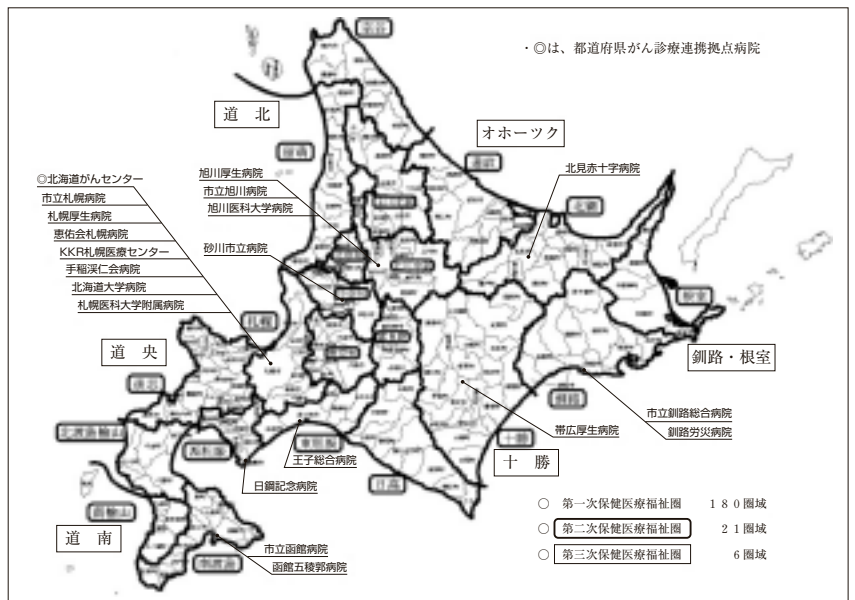
「がん対策基本法」を受けて、全国に整備されてきたがん診療連携拠点病院に平成21年2月23日付けで指定されました。本学はがん専門病院ではありませんが各診療科が高度のがん診療を提供しているだけでなく、病院全体として地域のがん診療の中心を担う体制を整備してきました。

今回、本院を含めて新規に10か所の拠点病院が指定され、全道に20か所の拠点病院が整備されることになりました。北海道には21の2次医療圏があり、数の上ではほぼ全道をカバーできることになりましたが、実際には札幌や旭川、函館、釧路には複数の拠点病院があり逆に全くない医療圏もあります。北海道の多くの2次医療圏には、拠点病院に指定されるための認定要件を満たす病院がないという実情があります。上川地区には旭川厚生病院に加え、今回新たに市立旭川病院と本学が拠点病院に指定され3病院となりました。これら3拠点病院には、上川管内の3つの2次医療圏だけでなく留萌、宗谷を加えた道北全体のがん診療をカバーすることが期待されています。

医療機関として求められる役割

高齢化を背景に、多くの合併症を持ったがん患者が増えており、総合病院であることを強みとしたがん診療の提供が求められています。また、大学病院が持つ人脈や教育スキルを有効に活用した、地域のがん診療ネットワークづくりや人材育成も大きな課題です。このようなことを踏まえて、高度先進的医療の提供に加えてがん医療に関する研修の実施やがん診療に関する専門的知識・技術を持つ医療者の育成・派遣などの役割を担うべく準備を進めています。

がん診療連携拠点病院は、「がん医療の均てん化」を目標として整備されてきた病院です。高度ながん医療を提供することはもちろんですが、最近のがん患者・家族のアンケート調査では「がんに関する情報」が最も必要とされています。がん診療相談支援センターを中心に、各種がんに関する基本情報や最新の診断・治療に関する情報、本学を含めた各医療機関のがん診療情報、経済的な支援情報など患者が求めるがん情報を適切に提供し、患者・家族から安心してがん診療を受けてもらえるような体制の整備を進めています。





〈メアカンキンバイ〉
北海道の高山の礫地に生育する多年草。レモンイエローの花と、深く切れこみの入った淡緑色の葉が特徴。

みなさまの声を聞くために

旭川医科大学病院では、毎年1回、「患者満足度調査」を実施しています。患者様の評価した結果を指標として医療の質を見直し、改善点を見つけることでさらなる医療サービスの向上を目指しています。

●医師に対する評価

平成19年度		平成20年度					
回答数	満足度	回答数	満足度	内訳			
				診療	説明	質問	応対
413	98.1	632	98.5	98.5	98.1	98.5	98.7

※回答数は、診療科が確認できた件数です。

【評価項目の内容】

診療:診療行為に関する満足度
説明:症状や治療方針等に関する説明のわかりやすさ
質問:質問や相談のしやすさ
応対:応対(言葉遣い、態度等)に対する満足度

【集計方法】

各設問ともに、回答は特に記載がない限り「非常に満足/満足/どちらともいえない/不満/非常に不満」の5項目です。このうち、非常に満足・満足・どちらともいえない、の回答は満足として集計しています。この他の設問においても同様です。

●看護師に対する評価

平成19年度		平成20年度					
回答数	満足度	回答数	満足度	内訳			
				看護	説明	質問	応対
335	97.3	557	98.1	98.4	98.4	97.8	98.0

※回答数は、病棟が確認できた件数です。

【評価項目の内容】

看護:看護度の適切さに対する満足度
説明:入院生活・計画等に対する説明のわかりやすさ
質問:質問や相談のしやすさ
応対:応対(言葉遣い、態度等)に対する満足度

●中央診療施設等に対する評価

職種	平成19年度				平成20年度			
	説明		応対		説明		応対	
	回答数	満足度	回答数	満足度	回答数	満足度	回答数	満足度
薬剤師	328	97.6	314	97.5	528	98.1	477	98.3
放射線技師	283	97.5	283	97.9	396	98.0	416	97.8
検査技師	298	99.0	301	99.3	428	98.6	432	99.3
理学療法士	168	99.4	176	98.9	242	97.1	257	99.2
栄養士	169	98.2	—	—	234	96.6	—	—
事務職員	464	95.0	464	96.8	725	96.3	733	97.4

【評価項目の内容】

診療:薬剤・検査などに関する説明のわかりやすさ
事務職員に関しては、手続きや料金などの説明のわかりやすさ
接遇:応対(言葉遣い、態度等)に対する満足度

●全般に対する評価

項目	平成19年度		平成20年度	
	回答数	満足度	回答数	満足度
診療サービス面の全般について	445	96.4	684	98.0
接遇面の全般について	464	97.2	736	98.1
院内環境面全般について	484	97.9	770	98.7
院内施設面全般について	481	98.8	760	98.7
プライバシーへの配慮	451	96.7	726	97.7

●院内の環境および施設面に関する評価

項目	平成19年度		平成20年度	
	回答数	満足度	回答数	満足度
病室の居心地	328	98.2	551	97.8
病室内の設備	328	95.1	546	95.1
病棟の設備	328	95.7	542	96.9
施設等のづくり	320	99.4	530	97.7

※回答数は、病棟が確認できた件数です。

項目	平成19年度		平成20年度	
	回答数	満足度	回答数	満足度
食事の内容	478	93.9	776	92.7
食事の時間や起床・消灯時間	480	94.8	782	95.5
医療機器の設備	462	99.8	703	99.3
トイレ、洗面、バス等の設備	484	97.3	779	98.7
売店、食堂、自動販売機等	480	97.3	737	97.6
整理整頓や清掃等	482	98.1	775	97.5

●本院への推薦

項目	平成19年度	平成20年度
	満足度	満足度
ぜひ勧めたい	61.4	63.5
勧めたい	32.0	29.3
どちらともいえない	2.7	4.5
勧めたくない	3.5	1.6
絶対勧めない	0.4	1.1

●総合評価(点数)

	平成19年度	平成20年度
100点	14.4	13.5
99~90点	47.3	53.7
89~80点	26.3	21.3
79~60点	10.0	9.4
59点以下	2.0	2.2

事業活動にともなう環境負荷低減への取り組み

大学および病院における各事業に伴う環境負荷の全体像を正しく把握し、その低減に向けた取り組みを、学生・職員とともに積極的に推進しています。

エネルギー・資源の使用量

本学において、平成20年度に消費された電力、ガス、上下水道、コピー用紙などの、主要な物質の総使用量、および平成18年度からの使用量の推移を以下に記載します。

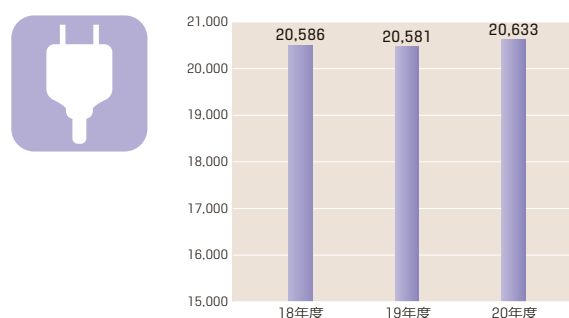
本学は、実験・研究の内容や、病院の患者数の増減、または外気温などの環境要因によって、エネルギーや資源の使用量による環境負荷が大きく左右されますが、学生・職員一人ひとりがエネルギー使用量への意識を持ち、その削減に取り組んでいます。

電力においては省エネ機器や人感センサーなどの導入、節電の啓発活動、職員による巡回点検、および定時退勤による電気使用時間の節減などに取り組んでいます。また、上下水道については、節水のためのシステム機器導入などを行っています。

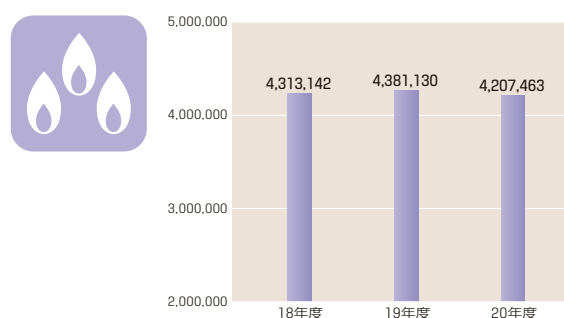
昨年度と比べて、建物面積が増えたせいか、電気の使用量は若干ですが増加傾向にあり、上下水道の使用量も増加しています。また、ガスの使用量は、冬季の外気温が高かったせいか、暖房用ガスの使用量が減少しました。ガソリンの使用量が減少したのは、救急車の出動回数が減ったためです。

また、コピー用紙は、極力両面コピーや文書のスリム化に取り組んでいますが、業務量増大のためコピー用紙の使用量が増えております。これらについては、今後削減に努めます。廃棄物については、分別の徹底はしていますが、建物増築時の引っ越しの際に発生した一般廃棄物が増えています。感染性廃棄物については、患者様の増加に伴い、廃棄物も増えています。

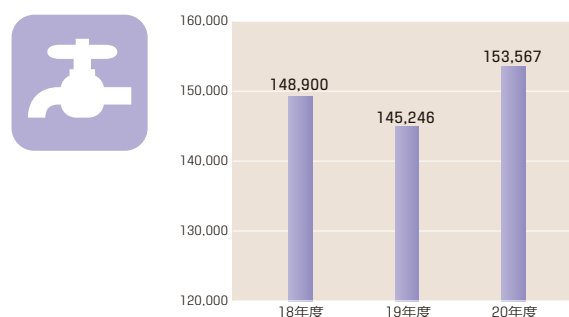
■ 電力使用量 (千KWH)



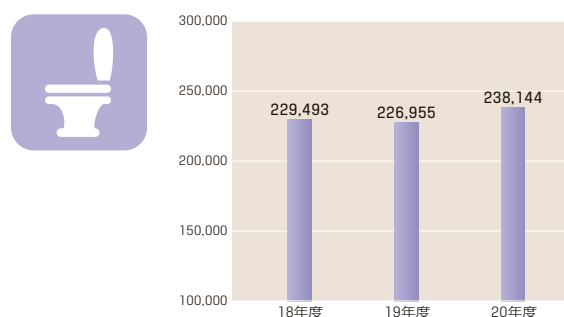
■ ガス使用量 (m³)



■ 上水道使用量 (m³)



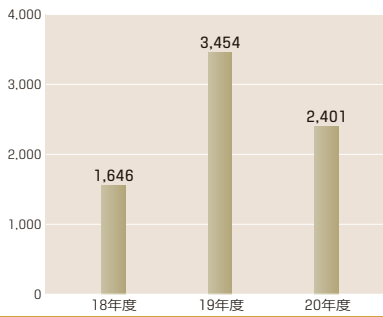
■ 下水道使用量 (m³)



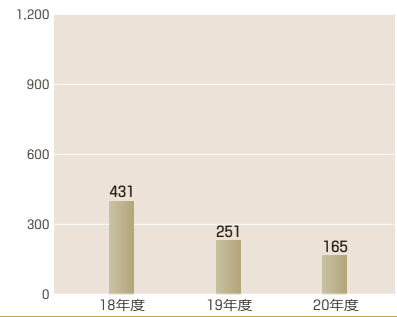
〈ヨツバシオガマ〉
 高山帯の草地に生える多年草。
 葉は通常、節ごとに4枚輪生し、羽状に深裂する。紅紫色の花が4個ずつ数段に輪生し花穂が長くなる。



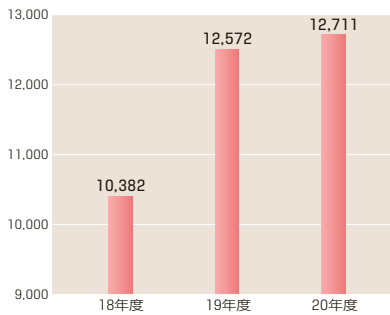
■ ガソリン使用量 (L)



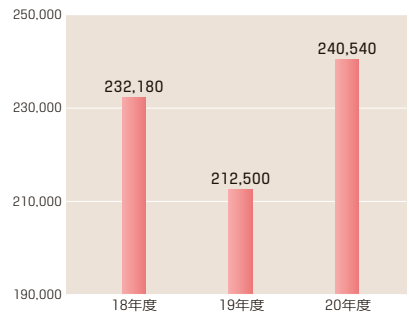
■ 軽油使用量 (L)



■ コピー用紙 (千枚)



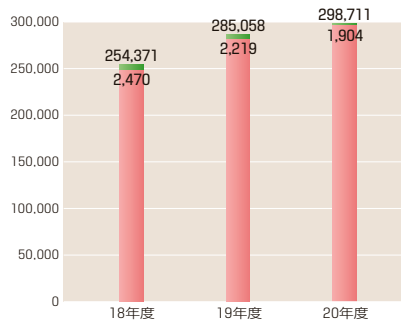
■ 一般廃棄物 (kg)



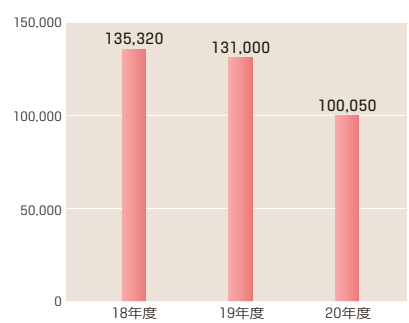
■ 感染性廃棄物 (kg)



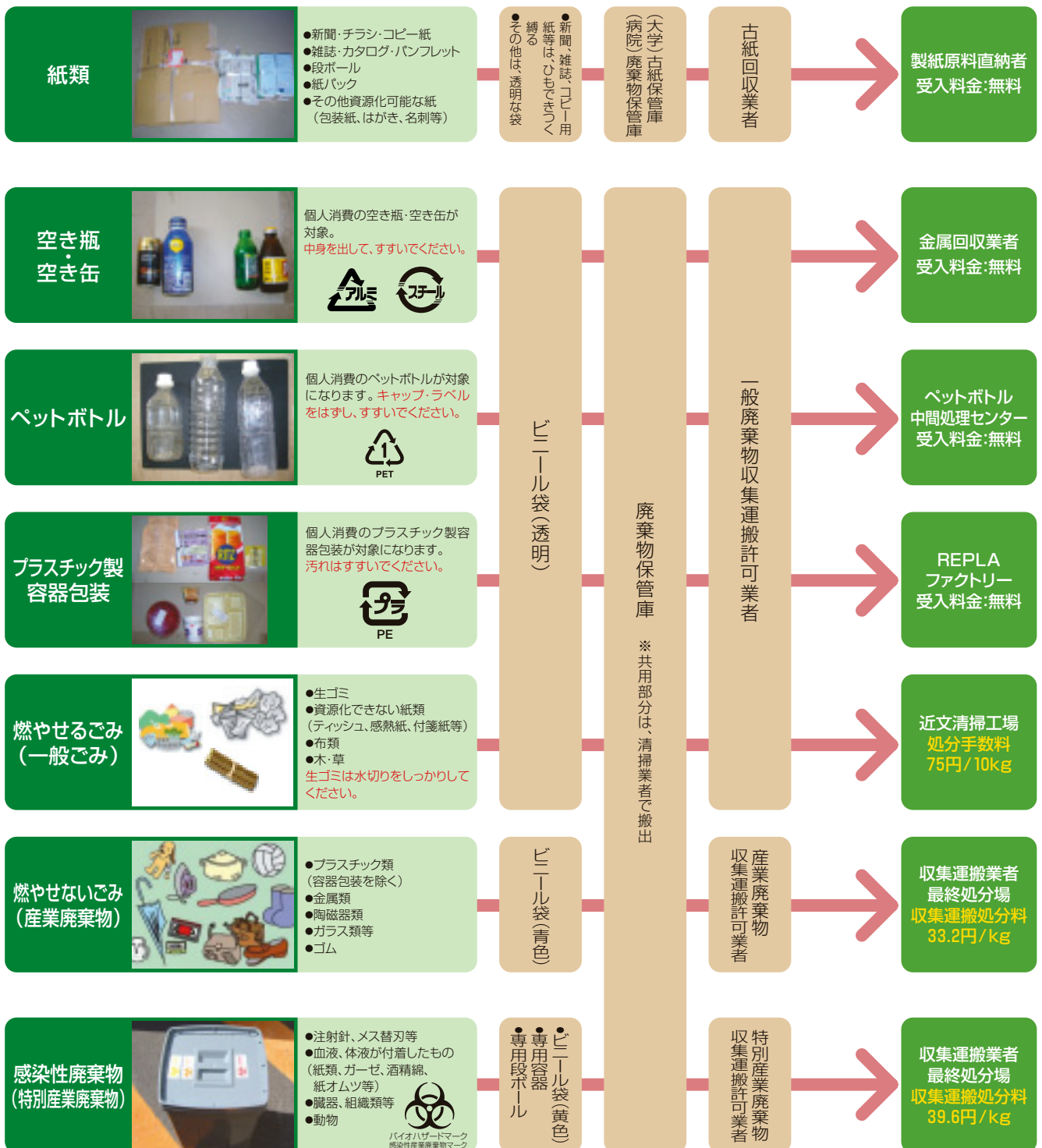
■ うち実験用動物



■ 非感染性廃棄物 (kg)



ごみ分別区分と処理の流れ



〈イワウメ〉
高山帯の岩隙地や岩壁に絨毯のように広がって生える。6～7月に枝先から伸びた花柄上に梅に似た2cmほどの花をつける。



資源再利用への取り組み

古紙、ダンボール及び廃プラスチックの分別パンフレットを配布し、学生、職員の協力を得て分別収集することにより資源の再利用を図っています。

この取り組みによって、環境負荷の軽減に繋がるとともに経費削減が図られています。

表示されている識別マークに基づき、適切な分別・廃棄に努め、再資源化を促進しています。



プラスチック製容器包装
飲料・酒類・しょう油用の
PETボトルを除く



紙製容器包装
飲料用紙パック
(アルミ不使用のもの)と
段ボール製のものを除く



PET
飲料・酒類・しょう油用の
PETボトル

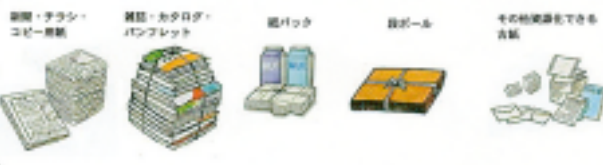


飲料用スチール缶



飲料用アルミ缶

古紙（事業系紙類）の分別

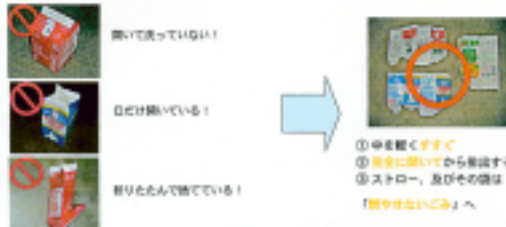


資源化できる紙	資源化できない紙 【資源物として処分】
<ul style="list-style-type: none"> ○色紙、複写紙 ○メモ用紙 ○封筒 ○カレンダー ○地図 ○おさがり ○紙製製菓包装の一部 - コピー用紙の包み紙 - 紙製手帳の紙 - ビニールを巻きつけたティッシュの箱 - 包装紙、紙袋 - 画の紙 	<ul style="list-style-type: none"> ●加工されているもの <ul style="list-style-type: none"> - カーボン紙、複写紙、複写紙 ●物理的性質が異なるもの <ul style="list-style-type: none"> - シュレッター紙 ●化学処理されているもの <ul style="list-style-type: none"> - 金、銀紙（アルミ箔は除外） ●のりがついているもの <ul style="list-style-type: none"> - 用紙用シール紙、インデックス、付箋紙 ●表面が防水加工等のコーティングされているもの <ul style="list-style-type: none"> - 写真、光沢紙、紙コップ、防水加工紙 ●その他資源化に向かないもの <ul style="list-style-type: none"> - 半紙、合紙紙、ティッシュ、汚れた紙（汚紙）

古紙を排出する際の注意！！

- 新聞・雑誌・段ボール・紙パックは、それぞれを **10kg** までまとめて下さい。
- タリップ・ゴミ袋は、必ずして下さい。
- その他資源化できる古紙は、束ねるからしくは **透明な袋** に入れて、両面の印刷（品名・数量・廃棄物管理）に注意して下さい。

「紙パック」の排出方法



みなさんのご協力をお願いします。

総務部会計課

主なプラスチック製容器包装（個人消費に係る）

ビニール袋：透明



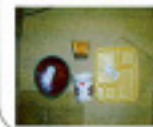
このマークがついているものが対象です。マークがない場合でも、袋面を包んでいるプラスチック製のものは対象外になります。

<お菓子の包装>



お菓子（個別包装も含む）、デザート・パンなどのプラスチック製の包装

<弁当の容器>



両面の印刷が、カップ麺・デザート・お菓子などのプラスチック製包装
※透明な袋に入れて下さい。

<ペットボトル・キャップ>



飲料用PETボトルのラベルおよびキャップ

<レジ袋>



商品を置いたときに
に入れてもらった
レジ袋

<文房具の包装>



両面を包んでいる袋（ひとりの機材がプラスチック製、両面印刷がされていることによるので注意）

～プラスチック製容器包装にならないもの～



※ 事業活動から排出されるプラスチック製容器包装は、「資源物（燃やさないごみ）」とする。

みなさんのご協力をお願いします。

総務部会計課

事業活動にともなう
環境負荷低減への取り組み

医療廃棄物等処理マニュアル

旭川医科大学 [平成19年3月改訂]

区分	主な内容	容器	搬出方法
感染性廃棄物	◆血液及び体液が付着した液だれの無いもの(紙屑、ガーゼ、酒精綿、紙オムツ、プラ手袋、ガウン)	ビニール袋(黄色) 専用段ボール	
	◆血液及び体液が付着した包帯等、ゴム屑(ディスポ手袋等)、廃プラスチック類(ディスポシリンジ、SBパック、吸引パック、チューブ、採血管、尿パック等)、培地等	専用段ボール 専用容器(灰色)	
	◆感染患者に使用した廃棄物 ◆隔離患者に使用したディスポ食器、残飯等 ◆液状物等が流出する恐れのある紙オムツ ◆血液及び体液が付着したスライドグラス、シャーレ、試験管等 ◆針が付いた輸血パック ◆抗がん剤、薬液の残量入りボトル・バイアル ◆在宅療法の患者が使用した廃棄物全て ◆大量に血液及び体液が付着した液状物 ◆輸血部等で発生する不用血	(黄色・赤色・橙色のバイオハザードマーク)	
	◆放射性医薬品を投与された患者の紙オムツ・尿パック	ビニール袋(緑色)	
	◆注射針、ディスポ製メス替刃、その他鋭利なもの ※使用、未使用を問わず	専用容器(黄色のバイオハザードマーク)	
一般廃棄物(特管)	◆臓器、組織類(病理廃棄物) ◆肢体、胞衣産わい物	ビニール袋(黒色)	
	◆実験動物の死体 (搬出方法) ◇ビニール袋は2枚重ねにし、さらにその上から繊維入りの堅固な袋で覆い3枚重ねとすること。 ◇大きな動物は持ちやすいように、ひもで縛ること。	ビニール袋(黒色) 繊維入り袋	
非感染性廃棄物	◆廃プラスチック類(プラボトル、トレー、発泡スチロール等) ◆血液及び体液の付着していない医療廃プラスチック類(ディスポシリンジ、チューブ、空の点滴パック等) ◆ゴム類 ◆陶磁器類(食器、花瓶等) ◆ガラス類・カン類(洗浄済み薬液の空ボトル等) ◆ガラス類(コップ、使い捨てビン等) ◆金属類(工具等)	ビニール袋(青色)	
	◆ガラス製アンブル類	専用容器	
一般廃棄物(事業系)	◆上記以外の再生不能紙ごみ(ティッシュペーパー等) ◆木製廃棄物(枝・板等50cm未満)、草 ◆生ゴミ(管理部門等の茶殻、食べ残し等廃棄物) ◆布類	ビニール袋(透明)	
	◆飲料用のカン・ビン類	ビニール袋(透明)	
	◆飲料用のペットボトル類	ビニール袋(透明)	
	◆プラスチック製容器包装(弁当から、ラベル・キャップ、お菓子の袋等) ※個人消費の空き瓶・空き缶、ペットボトル、プラ容器包装が対象	ビニール袋(透明)	
◆新聞、雑誌、段ボール(蠟引き・アルミ箔付は除く)、その他資源化できる古紙(コピー用紙等) (搬出方法) ◇必ずひもで梱包し、箱に入れないこと。 ◇段ボール類は箱を壊して平板にすること。 ◇コピー用紙は大き目の規格毎に梱包すること。 ◇カーボン紙は混入させないこと。	ビニール袋(透明)		

【感染性廃棄物】

- 血液類(血清、血漿、血液製剤等)及び体液が付着又は付着した恐れのあるもの。
- 病原微生物に関連したもの。
- 感染症で汚染したもの若しくはこれらが付着又は付着した恐れのあるもの。

【バイオハザードマーク】

- 内容物が感染性廃棄物であることの標識。
- 赤色(液状又は泥状のもの) 橙色(固形状のもの) 黄色(鋭利なもの)

〈エゾオヤマノエンドウ〉
表大雪と北大雪の隙地に生
える多年草。花が終われば、
エンドウ豆そのものの立派
な実をつけ、これもなかな
か可愛い。



グリーン購入・調達状況など

旭川医科大学では、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律「グリーン購入法」（平成12年法律第100号）第8条第1項の規定に基づき、環境負荷低減に資する製品・サービスなどの調達を進めるとともに、毎年その実績を関係省庁に報告しています。

平成20年度については、【平成20年度 旭川医科大学における「環境物品等の推進を図るための方針」について】を策定及び公表し、これに基づいて環境物品等の調達を推進しました。

各特定調達品目の調達量等については、17分野（184品目）を対象に集計し、下記により示します。

※調達実績がない品目に関しては、除外しています。

特定調達物品の調達量

分野	適用(品目)	全調達量	特定品目 調達量	特定品目 調達率
紙類	コピー用紙等	67,458kg	66,694kg	99%
文具類	シャープペンシル等	112,836点	112,794点	100%
機器類	イス等	451点	451点	100%
OA機器	コピー機等	617台	496台	80%
家電製品	電気冷蔵庫等	12台	12台	100%
エアコンディショナー等	ストーブ	2台	2台	100%
インテリア・寝装寝具	カーテン等	151点	151点	100%
照明	蛍光管等	1,272本	1,270本	100%
作業手袋	作業手袋	12組	12組	100%
制服・作業服	制服等	1,947着	1,947着	100%
役務	印刷等	669件	669件	100%
その他繊維製品	ブルーシート	2件	2件	100%

監事評価

監事 上林 猛

環境報告書は、2005年4月施行された略称「環境配慮促進法」により作成が義務付けられ本学として第4回目の刊行である。

これまで3回の環境報告書については、事務局内部で自己評価を行ってきたが、客観性、信頼性の向上を図るため監事評価を加えることとなった。

監事評価にあたっては、環境配慮促進法第8条に基づく記載事項等に沿って作成されているか書面により審査を行うとともに平成20年度の監事監査項目である「事務・事業の簡素、効率化及び省力化に向けた取り組みについて」の資料等を参考に評価を行った。

今回の報告書において、事業活動に係る方針、計画及び体制等については、昨年と概ね同様の内容となっており、継続的な事業活動を行う基盤として定着しているものと考えられる。

事業活動に係る環境配慮の取り組み状況等においては、学長のリーダーシップのもとで積極的な取り組みが進められている。

教育・研究・社会貢献における取り組みとして、高校・大学・病院の連携によるふるさと医療人育成の取り組み、地域の健康を守るため旭川ウェルビーイング・コンソーシアムの設置及び北海道メディカルミュージアムの設置、地域全体に医療を届けるドクターヘリの誘致及び遠隔医療の拡充などいずれも高く評価される。

病院における社会貢献への取り組みとして、がん診療連携拠点病院の取得と呼吸器センターの設置、安心・安全な医療のため「7:1看護体制」の取得についても高く評価される。

しかしながら、事業活動にともなう環境負荷低減の実績においては、電力使用量、上下水道使用量、コピー用紙使用量は、増加傾向にあり、施設の増や事業量の増などの事情を考慮しても引き続き低減に向け、省エネ機器の導入やペーパーレス化を促進するほか職員の意識啓発に努めていただきたい。

最後に、大学において教科や実習の中で環境教育を行っているが、学生が主体的にこの事業活動に参画できる環境を整えることも大切なことと考える。

以上、本環境報告書に対する監事評価とする。

平成21年9月

大学機関別認証評価

機関別認証評価認定マーク

学校教育法第109条第2項の規定に基づき、(独)大学評価・学位授与機構による「大学機関別認証評価」を受け、平成20年3月27日付けで「大学評価基準を満たしている」との認定を受けました。



結び 編集後記

旭川医科大学では、本学環境方針に則り、地球環境や地域環境の保全・改善のための教育・研究、診療及び開かれた大学としての社会貢献など全ての活動を通して環境との調和と環境負荷の低減に積極的に取り組んでいます。

昨年に引き続き「環境報告書2009」を公表いたします。

今後とも環境保全活動を推し進めていく予定です。

環境報告書WG責任者 副学長 飯塚 一
平成21年9月



旭川市民の木「ナナカマド」

落葉高木で春から夏にかけての繊細な緑、秋の紅葉、そして葉の落ちた後も赤い珊瑚珠のような実がいつも残り、冬には渡り鳥のえさ場として一息の安らぎを与える。花言葉は「安全」。



市民の花「ツツジ」

郷土種としては、エゾムラサキツツジ、ヤマツツジ、ムラサキヤシオなどがあり、北海道の山地に自生している。花言葉は「情熱」。



旭川医科大学

〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号
TEL 0166(65)2111 FAX 0166(68)2169
<http://www.asahikawa-med.ac.jp/>

環境報告書の作成に当たって

この「旭川医科大学環境報告書2009」は以下により作成しています。

- 参考にしたガイドライン／環境省「環境報告ガイドライン2007年度版」
- 対象組織／旭川医科大学
- 対象期間／平成20年4月～平成21年3月
- 発行期日／平成21年9月
- 次回発行予定／平成22年9月

作成部署

お問い合わせ先

旭川医科大学総務部施設課

〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号

TEL (0166) 68-2165 FAX (0166) 68-2169

E-mail / oga227@jimu.asahikawa-med.ac.jp

この環境報告書はホームページでも公表しています。

HPアドレス <http://www.asahikawa-med.ac.jp/>